女子青年界第十四卷第三號（毎月一回）
大正六年三月一日發行　大正六年二月二十六日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

要目

第十四卷
三月號

女子青年界第十四巻第三號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume (XIV) March 1917 Number 3.

新刊

■倉長巍著

ヨハネ傳五十講

定價 上 八十錢 並 五十錢
郵稅 八錢

■ポーター作 弘中つる子譯

パレアナ

原作一年ならずして二十版を重ぬ。面白く有益なる家庭小說。クリスマスの贈物に好適す。

表裝美麗
定價 八十錢
郵稅 八錢

■シムプソン著 中澤正七譯

人生の事實

著者十餘年の硏究になりし好著なり。

定價 上 七十錢 並 五十錢
郵稅 八錢

■グリーソン著 武本喜代藏譯

山上說敎

定價 五十錢
郵稅 二錢

■大井一郞著

耶蘇基督

定價 二十錢
郵稅 四錢

エインズレー著 大岩元三郞譯

神と我

定價 十五錢
郵稅 二錢

■バルト才著 赤星仙太譯

我子の生立の記

定價 三十錢
郵稅 四錢

■バークレー著 岩付淸四郞譯

敎師及敎授法

定價 二十錢
郵稅 二錢

新しき傳道叢書

■植村正久著「耶蘇の學校」定價 二錢
■同 上「人生と宗敎」定價 三錢
■天笠海軍大佐著「我が信仰と基督敎」定價 六錢
■山本工學士 谷津理學博士 大工原農學博士 共著「科學と信仰」定價 二錢

何れも趣味深く有益なる文學、時代に適當せる傳道小册子なり

新しきトラクト

■「眞の平和」
■「眞の救」
■「眞の敎」
■「神との交通」（大江壽美子述）
■「潔き家庭」（江原萊六述）
■「理想的社會」（石原萊謙述）

定價 千部 壹圓五拾錢（郵稅共）

發行所 東京市京橋區明石町八番地 **日本基督敎興文協會**

發賣所 警醒社、敎文館、基督敎書類會社、福音書店、丸善書店、岩波書店

女子青年界

第十四巻第三號

三月號

大正六年三月一日發行

愛は僞ることなかれ　惡はにくみ善は親み兄弟の愛を以て互に愛し　禮儀を以て相讓り勤めて惰たらず　心を熱くして主に事へ望みて喜び　患難に堪へ　祈禱を恒にし聖徒の匱乏を賑恤し　遠人を歡待にせよ爾曹を害ふ者を祝し　之を祝し詛ふべからず喜ぶ者と共に喜び　哀しむ者と共に哀むべし互に意を同し　尊大志をなさず　卑につけよ自己を智とする勿れ　惡を以て惡に報る勿れ　人々のよしとする所を心にとめて之をなし　力を竭して人々と睦親むべし　仇を報る勿れ　退て主の怒を待て　爾の仇もし飢ゑなば食せ　若し渇かば飮せよ　爾惡に勝るゝ勿れ　善を以て惡に勝つべし

（羅馬書十二章）

會說

試驗の及落

河井道子

米國でブカー、ワシントンと云へば三歳の童子でも知らない者はない程な有名な人物であります。此人は米國南北戰爭以前に生れた黑人種で。彼の兩親は奴隷でありました。彼の自叙傳を讀みますと、如何にしてワシントンと云ふ姓を名乘る樣になつたかといふ由來が出て居ります。卽ち彼は元來奴隷の子供でありました故、勿論姓は御座いませんでした。彼が始めて村の小學校に入學致しました時、敎師が生徒に姓名を問はれました。各々呼名ある氏姓がありますが、自分は呼名ばかりで氏姓はなく、何と答へてよいか分かりませんでした。それで心の中に若し自分の番が廻つて來たら、どう云はうかと思案して居りましたが、下賤な奴隷の子でも米國第一番目の大統領の名はジヨージ、ワシントンであると云ふ事丈けは分かつて居りました故、直ぐ其ワシントンと云ふ姓を取つて、ワシントンと答へて自分の姓としたのだといふ事であります。之を考へても彼は如何に卑しき憐れな者であつたかが、了解されます。然るに彼は志堅固にして職務に忠實勤勉、着眼點の遠大にして信仰心强固なりし爲め、終に彼は世界有數の大敎育者となり、黑人の大學を建て其職員生徒の數に於ても、又基本財産、校舍の宏壯なる等、此種の學校として世界に比類なきものであります。彼は幼年の時より敎育を受けたいといふ熱心があり

ました。種々なる困難を經て、或時は人の軒に臥し又は人夫等となりて、故郷より數百里を離れし土地に旅し、ハンムトン學塾に辿り着きましたのは、彼の十八九才の時でありました。彼は入學を申し込みました。然るに同塾の舍監は、彼を客室に招じ入れ一枚の布巾を渡し、此室内を掃除せよと命じました。其時彼は心の中に、遙々と遠方より道中勞働に從事しつゝ旅費を作りて漸々此學塾に辿り着き、入學せんと申込めば直に部屋掃除をなせと命ぜられ、如何にも殘念な事であると思ひましたが、しかし命ぜられし事を爲すのも、自分の熱心と忠實とを現はす方法であると思ひ直し、其部屋の掃除に取掛り、棚等は三度も拭いて椅子の脚、机の隅々まで、戸柱は云ふに及ばず、窓枠まで一本の塵も認められぬ程に丁寧に一生懸命に掃除致しました。頓て舍監が入つて來て、指先で棚や其他の器具の隅々を拭つて見ましたが、一點の塵も見付かりませんでした。舍監は欣然として青年に向ひ「よし汝の入學を許可せん」と申したさうです。ブカー、ワシントンが後日人に語つて「我入學試驗は室掃除なりき」と申して居ります。實に面白い入學試驗ではありますまいか。合格の仕方も愉快であります。

三月は學生に取つて最も重大な時機で及落の觀念が一分間たりとも腦裡より去りません。最早今年卒業の冠を得んとする者には一生の大紀念期が此三月であります。それで心配の餘り、痩せる者や、短氣になり神經的に自他を苦しめ譯もなく悲觀したり怒つたりする者も多く出でる事であります。此學期試驗は若き人々に啻に昇級又は卒業の事實のみならず、其以外に大きく云へば人生のそれ以上な大試驗が順々に攻寄せますからその準備をさせ樣とする意味が含んであります。人間は一生涯試驗を經つゝあるもので基督教より云へば最後の大試驗は神の前に立ち裁判を受ける時であると申します。兎も角も此三月に於て私共は試驗と云ふ問題を只學校而已と思はず、廣く深き意味に解釋したい者ではありません

か、此點から見るとブカー、ワシントンの入學試驗は彼の品性の入學試驗であつて、誰れの身にも毎日降り掛かつて居る問題であります。

學校では、一年生の試驗と五年生の試驗とは程度が非常に違ひます。一年生が毎年〱容易い程度の試驗をする樣なれば、彼は低能兒か或は病人であります。それと同樣に學校の卒業試驗と社會に於ての活きた問題に對する試驗と比べたら、これは矢張其程度が非常に違ひます。年を取るに從ひ責任も重くなり、地位の高まるにつれて、其試驗が面倒になつて參ります。世間には往々にして學校で優等生であつた者が失敗者になる事が御座います。例へば優等生で卒業して或會社に勤め、最初は眞面目に勤めて居りましたが、數年後には全く信用を墜した樣な人も數多あります。又才媛として校中の美望の的となつて居りました女子が、家庭の人となつてより、彼の語る處、志す處、喜ぶ處、悲しむ處、無教育な賤婦と何の撰ぶ處なき人がある事を常に目撃する處であります。彼等は活きたる試驗に落第した人々であります。若し學校に於て苦痛に堪へ、六ヶ敷い學科を綿密に考究し、己が智識を誇らず、又愚鈍失望せず、孜々として倦む事なく、只人の目前を飾り、教師の前を粧らふにあらずして、正直に知るを知るとし知らざるを知らずとして、謙遜に習得せんとする其精神と努力を在校中に充分に養ひ得たる者ならば、必ず社會に於て、より以上の難問題に對しても決して恐れ惑ふ事なく充分なる解答をなし得る者と信じます。私共の身の廻りには落伍者もあれば、又成功者もあります。然し普通の標準で之を申すのでは御座いません。只名聲を揚げ幾萬の富を積んだと云ふのを申すのでは勿論ありません。聖書に依つて之を云ひますと、ザーカイやマタイの樣な非道な高利貸が氣高き基督に遇ひ、未だ基督の要求し給はざりし中に、彼等自身より申し出るには「先生私が今日迄人より強奪たものをば之を四倍にして被害者に償ひ度と思ひます」といふ告白が御座います。又

之と反對に品行方正なる若き道德者が基督の許に參り「永生を得るには何をなすべきか」と尋ねました時に、主基督の「汝の持物を賣り貧者に施せ、後我に從へ」との御返事に此青年は非常に驚き悲しみ然して其の場を去たとあります、前者は及第後者は落第したのでした。使徒ポーロの如き殆んど廿年以上も萬難と戰ひ、終に牢屋にて將に世を去らんとする時、世人より落伍者の大本山とも目擊さるゝ彼自身は旺然として曰く「我既に善戰を戰ひ既に馳るべき途程を盡し既に信仰の道を守れり、今より後義の冕我爲めに備あり」（提摩太後書三〇七――八）と叫んで、大試驗に及第した事を世界に報じて居ります。然るにピラトやヘロデ王の如き王侯貴族として、尙一時的人民の歡心を得んとして、罪なき基督を十字架に付け得意然たる是以上の落第の仕方もありますまい。是等の引例は昔の事で、私共の日常生活と掛け離れた事件の樣に思はれますが、然しよく考へて見ると、今日各自人生の試驗といふ意味が慥かに含まれて居ります。例へば女子としての結婚問題の起りし時、其及落は一生の途路を開くか閉づるかの分目で御座います。人格を重んぜず、只地位や名望、物質上の榮華をのみ望んで嫁するが如きは、實に悲慘なる落伍者の中に入るものであります。或は是より高等の敎育を受けんと希ふ場合、自分の腕にて家計を立てねばならぬ事情等湧出し、爲めに望を捨て職業に就くとか、或は田舍敎師になる樣な場合もあります。一友人の手紙に左の如き言葉がありました「神よ若し神御自身が若き田舍敎師になり給ふた場合になし給ふ如くに我をなさしめ給へ」と祈りつゝ奮鬪の一年を過さんと喜びの中に勉め居り候」と實に健氣な決心ではありませんか。此等の人は大なる試驗の優等生であります。又私の知つて居ります一人の年若き婦人は、放蕩なる兄無智なる母、無敎育なる妹二人を持つて居て彼女の腕に依つて得る僅少なる收入は、此家族を支へ、剩へ此兄の爲めに彼女の受くる苦痛は非常なものであります。

斯くの如きは、家庭の各員が此婦人に取つて試驗の大問題であつて、母及兄妹に對する忍耐犧牲の及第點を取つて居ります。今一人の姉妹は生れながらにして虛弱の上幼にして父母兄弟を失ひ、最も淋しく悲しき日常の試驗をうけて居ります。然るに常に感謝と喜びといふ滿點を得て、到底普通の者の思ひも依らぬ幸福を神に依つて得て居ります。斯く數へて參りますと、世の中には一年生から二年生、それより三年四年と、次第〳〵に及第しつゝある人の多い事を見て感謝に堪へません。如何しても此世には善惡の戰は絕えません。私共は常に試驗場で試驗されて居るのであります。折角一事に打勝ち及第すれば、又以上の試驗と云ふ樣にいつも程度が六ケ敷くなつて來まして、決して決して容易くなるといふ事は進步しつゝあるものにはありません。「戰なくば勝利なく勝利なくんば冕なし」といふ金言を覺えて私共は常に勝利及第といふ喜ばしき經驗をせんが爲め、學校の試驗と云はず學問上にも日常の生活にも精神界にも凡てに於て神に依つて花々しく優等の地位に立たん事を希望する者であります。

神が我々を鍛練し給ふといふ事が度々聖書に出て居ります。其二三を玆に引照して參考に供しませう。

「エホバ云ひ給ふ我彼等を火に入れて銀を熬分る如くに之を熬分け金を試むる如くに之れを試むべし。」（撒加利亞書十三〇九）

「視よ我汝を煉りたりされど白銀の如くせずして患難て爐をもて試みたり。（以賽亞書四十八〇、一〇）

「彼は金を吹き分くる者の火の如く布晒の灰汁の如くならん、彼は銀を吹き分けてこれを潔むる者の如く座せん、（馬拉基書三〇二――三）

「凡ての懲治今は悅ばしからず反つて悲しと意はる然ど後之に由て鍛錬する者には義の平康なる果を結ばせり。（希伯來十二〇十一）

「爾曹世に在ては患難を受けん然と懼るゝ勿れ我己に世に勝てり。」（約翰傳十六〇三十三）

渡米婦人は成功しつゝありや（五）

河井道子

米國女子青年會の幹事の中に、ミス、マガレット、パアトンと申す方が御座います。此人の父君はシカゴ大學の教授でありまして、先年父子共に日本、支那、印度を漫遊され、學生間の事情を親しく視察された人であります。此幹事は北米合衆國の大、中學校に在學せる東洋の女學生の顧問役をして居られます。東洋と申せば如何にも廣う御座いますが、印度邊から渡米せる少數を除く外は、支那、日本の女學生が主であります。そこで此幹事は常に處々を訪問して、外國女學生の便宜を圖り、彼等の信仰を導いて良家庭に紹介したり、學校の撰擇に力を借したり或場合には學費の點さへ心配して下さいます。此幹事より屢々日本の女學生の事を聞きましたが、中々當を得たる觀察をして居られます。其の話しに、先づ一學校に日本女學生と支那女學生とが同時に勉學して居ると致しますと、一般よりすれば支那人は勉强家で日本人は交際家といふ風があるさうです。それ故一寸見掛のみより論せば、如何しても日本人の方が快活で氣轉に富み、戯言も云ひ風姿も優美で、非常に歡迎され勝であります。これは決して咎む事でも無く交際家だといふ批評も惡い事ではないが、然し只評判が良いとか面白いとか可愛らしいとか位の事で終るとせば、外國迄踏み出した事が、却つて本人の不爲であり延ひては日本全體の婦人の價値を下げる事になると思はれます。

男子の留學生は別として、女子の方は文部省より

派遣されると申す者は極めて少なく、二三名に過ぎませんん。是も毎年の事ではなく、三年目或は四五年目位に稀にある位であります。餘は種々なる奬學金即ち傳道會社、學校或は團體、個人よりして資金を出し、有望な學生を敎育し卒業後有益なる人材として社會に貢献せしめんとの目的で留學生を出して居ます。稀には兩親より學資を得て留學する者もありませうが、是も寥々たるものであります。若し日本と米國との富の相違を知らば是は自然の事と了解ります。留學生一ヶ年の費用は少なくとも壹千貳百圓は掛ります。それに旅行費其他を加へ可成りの金額に上りますが、娘の敎育の爲め毎月百五六十圓位の金を出し得る家庭が日本に何程あります。假令出し得る家にしても、娘を外國迄出して敎育せんと志望する親が幾人ありませう。是等を押しても米國にある留學生中、資金全部を兩親より受けて居る者が至極僅かなるを知る事が出來ます。さればとて學費を政府なり、學校なり、個人なりより仰ぐと申す事は

少も愧とする事でありません。却つて名譽と感謝の念が起るべき筈であります。該地にてよく學校の優等生に貧富に拘はらず奬學金を與へます。某友人の如きは入學試驗の際、優等なりし故を以て金滿家の娘でありながら、學校より奬學金を一ヶ年受けました。家族の人々は大喜びで、祝賀として其奬學金以上の價の指輪を贈り、友人を招き饗宴を張りました。其上彼女の父君の言には幸に娘は奬學金を受くるに至りたる故、彼女の爲めに出資すべき學費を以て一學生を敎育せんとの希望を發表されました。是に依つて米國では奬學金に與ると云ふ事が如何計り名譽であるかと云ふ事を示して居ります。日本人は貧きにも拘はらず稍ともすれば他よりの資金にて學問するを愧づるの風があります。勿論役にも立たぬ者が無理に他に借金し、又は强請して資金を出さしめ、漫然と留學生を氣取るは、之より愧づべき事でありませんが、然し當選し或は拔萃されて高等敎育を受けられし場合には、謙遜なる態度

にて感謝と勇氣とを以て之を受けるべきであります。好き意味に於て誇とすべきものでありませう。

其處で申上げた樣に日本女子留學生の大體は大に他より受けて居る者でありますから。將來に於ては大に他に與へんとする者となるべき大責任があるのであります。彼等は米國の長所を理解し、之を消化して自己の品性を磨き、又日本の美點を彼國に紹介すべき位地に居ります。されば啻に日本自慢をのみして一より十迄外國風を卑しめたり、或は其反對に日本の事は皆外にして外國の事は逐一是なりとするも愚の至りであります。何處迄も活眼を以て是非を觀破する丈けの常識が無くてはなりません。其れ故同胞姉妹にして、只に美麗なりとか、奇才に富むとか、或は交際家なりなどの評を以て滿足する樣では、とても大責任を果す等は夢にも思はれませぬ。

日本婦人は全體に於て身體が小さき爲、米人間では年よりも若く見られ勝故、それを幸として無理に子供染みたる風を粧ひ、所謂甘へたる如き女學生も時々見掛ける事が御座います。彼等は物に氣付ない振をして無責任なる言行を敢てして愧ぢません。又是を眞に受けて特に愛する人ある時には、益々無遠慮になり、自己の要求を益々增大し付け上がり、依賴心のみ增して非常に迷惑を掛ける橫着なる女になる樣です。又左もなくとも、只に化粧にのみ時を費し、流行を追ひ眞相を知らずして、男女交際にのみ心を用ひ、心ある米人をして蹙眉しめる女學生もない譯ではありません。此等を見て、何處迄も日本の婦人は價値ある者と人々に認めしめんとして、これと正反對に大人氣取り、彼國の女學生の極めて無邪氣に良く遊び、好く勉强し、運動する中に己ればかり遊ぶとか運動とかは子供臭しといはん計りに只勉强のみをして、他の人々と仲間入をせず、何事か議論でも出づる時には、直に日本流を振り廻し、角角しく他人をして打ち解ける事の出來ない樣にして居る人もあります。これも勿論間違つて居ります。是等は幸にして極めて少數でありますが、先づ失敗者

と申してよい人物であります。成功の留學生は、好き意味に於て郷に入りては郷に從へといふ格言を實行して、西洋の長き風習を見習ひ、留學せし事が慥かに彼等に取つては別天地を開拓した樣な經驗をして居ります。即ち學校に於て教師と生徒の關係、學生の進取的精神、自治性に富める校風、生徒間の協同一致の精神、義俠心、無邪氣なる遊び方、眞面目なる研究法、廉潔なる男女交際、學校と社會との近接、家庭の神聖、宗教心の强固何れも之を在學中に窺ふ事が出來ますから、此等に志して之に依つて見分を廣め己が品性を琢磨し、見地を高めつゝある學生は、成功者であります。此等の留學生は慥かに學期又は休暇を利用して日本では得られぬ活きたる學問をして居ります。

今や支那政府では、年々七八名の女學生を米國に送りつゝあり、彼等の學校撰擇は基督敎女子青年會に一任せられてあります。實に立派なる人格の支那婦人が渡米致しますから、彼等と普通の日本女學生とを比較せられる場合には、慥かに我等に遜色があります。斯る場合でありますから、今後留學を志す者又候補生を撰擇する者、何れも留學生それ自身が、個人並に國家に大關係を有する事を覺悟して注意を加へたいものであります。姉妹方の中幸にして米國といはず支那といはず海外に出でんとする者は、學生たると主婦たると問はず、皆國家を代表し日本人を代表して居るのであるといふ事を忘れず、又彼國の長き處を習ひ我の非を改め己が受けし祝福を物質上に於て或は精神上に於て力の限り他に分與して戴きたいものであります。



耶蘇基督とは誰ぞや

牧師　植村正久

基督教は基督を中心とした教である。基督自身が基督教である故、是を知らんとせば、耶蘇其人と彼の榮光とに親しく接せねばならぬ。彼の事は聖書の中に書てあるが、只書物に有るのみならず其力は現在此世界に活動し、我々の身に迄及んでゐる。然れば只昔の歴史中の人物として基督を識るのでなく、現在の事として識り、其恩寵を經驗するが大切である。我々は書物の上に於て讀む耶蘇。又昔の人々が如何に耶蘇を見たか、恩寵を受けたか、今日耶蘇が我々の中に如何に顯れ給ふかを知る必要がある。

第一、耶蘇の人物人柄其品性の實に驚嘆すべきもの、其不思議である事を我々は感ずる。言葉新しく云ふに及ばぬが、彼は罪なき人、品性完全なりしは不思議と爲さざるを得ぬ。是は桑田變て海と成ると云ふ以上の不思議な事。天地の覆る以上に不思議な事である。耶蘇の全く罪なく、道德上一點の瑕玼がなかつた事に對し、耶蘇の在世中共に居りし弟子等が終に彼を拜む樣になつたのである。如何なる考で拜んだかと云ふに、實に高尚な觀念からであつた。今日無暗に神を作りまつる樣な無造作な事でない。高尚な深い意味で拜み、其觀念で支配され、終に耶蘇を神の傍に置き、神と共に祭り、神と同樣に之に仕へる事を少しも怪しとせず、寧ろ自然の事として居た。畢竟主耶蘇は彼等の上に威力を以て居られると見えた。耶蘇の人物、道德、品性等を以て信仰心を起す本山とも思つて居たのは慥かである。斯く耶蘇

は弟子等の前に立働き自らを示して居られた事は實に驚く可き事、比類なき人格、其人柄道德精神が赫々として現はれた事は、決して個人にのみでなく、世を經るに從ひ耶蘇に對する心持が益々弟子等の持ちし樣な心持ちになるといふのは、不思議と云はざるを得ない事實である。

第二、耶蘇の持つて居られた宗教、自身の信仰生活。又彼の靈が如何な風に働いて居たか。彼は如何に神を愛し、之に事へられたか。神と耶蘇との關係は如何と考へるに。是も又不思議である。我々は高尙な意味に於て、神といふ者を識る事、信ずる事は六ケ敷い。氏神と氏子位ならいざ知らず。耶蘇の御知りになつた樣に神を認め、自ら神の子なりと信ずる事は及びも付かぬ事、望み難き不可能の事では無からうか。己を反省するに神を信ずる事六ケ敷。利己中心、唯物主義世の中の事に屈託する事が多いので、己と己の卑しき快樂を神と見代へ之を神として仕へたがる趣を持つて居る。形式に捕はれ易く、人間が恐ろしく、下品な物が慕しく願はしく思ふ。人間はどう考て見て、罪のあるもの、神の子たる事は六ケ敷のであるが、主耶蘇を見ると是こそ神の子であると思はざるを得ない。「父は我に萬物を與へ給へり、父の外に子を知る者なく子の外に父を知る者なし」とは耶蘇の言葉である。斯の如く深い不思議な關係が耶蘇と神との間に在り、我々が神と親しくなるのも耶蘇に依らざるを得ないのである。即ち耶蘇あつての神、耶蘇なくば神を眞に拜する事は出來ない。若し耶蘇が神を顯はされず、耶蘇に依つて神を信ずるにあらざれば佛教の神と儒教の天と撰ぶ處なく只漠然たる物である。故に耶蘇あつての神であつて、耶蘇に依つて我々は神に結びつく事が出來る。耶蘇を離れて神があらうか。勿論學問上理屈上の神は學者中に有り得る事であるも、父なる神を拜み、父子の關係を持つ事は、耶蘇の外には出來ぬ事である。故に耶蘇と親しくならざれば神に親しむ事は出來ぬ。影の形に添ふ如く、響の音に伴ふ如く、基督

と神とは離れる者ではない。若し我等が無理に離さんとせば神を失つて仕舞ふのである。斯く神と耶蘇とは一つ。我等の信仰一つ。神を拜する事一つ。祈る時一。罪の釋される時一。これは事實に非ずや。此關係は他に例なく、無類絶倫、成程是こそ神の一人子に相違なしとの信仰が湧出せざるを得ない。之れ學說でなく我等の信仰生活に於て認め經驗して居り、感じて居り、覺えのある事である。

第三、斯の如く耶蘇は神を我々に顯し給ふ故に耶蘇を見る、之れ神を見るので、彼を信ずる、是即ち神を信ずるのである。只に神を識るのみならず我々は基督に於て人を眞に識る樣になる。耶蘇が我々に人間といふものを現はされた處は全く他と違ひ、新しき人、神の子、永遠の生命、靈の價値、未來の事、人間の成行、終極、着點、赤裸々に新しく敎へられる。基督敎は昔の敎と異ひ自殺を非とする。人間苦痛の解釋を他と異にして居る。少しでも片端でも耶蘇を味ふて居ると、人間の價値意味が違つて來る。

星の世界は我々に足掛りも付かぬ物であるが、山ならばヒマリヤ山でも登れるし、神々しく拜む如き富士山でも金剛杖をついて登れるといふのは、山の麓が大地の上に在るからである。我々が耶蘇を見上げると、あゝいふ方が地にあり我々と骨肉を分けたのだと考へれば人の志は刺戟され奮發心は勃興する。耶蘇の如き人が有り、彼の如き神の子がある事を考へると、目的も變つて來るし、志も變つて來るが不思議でないか。

第四、勝利の盛なるに驚く。我々の中には外界の壓迫に苦んで宗敎を信ずる者もある。我々は絶えず自然界や外界の爲め壓倒され、屢々飲食の爲めに酷き使はれ、虐められ、或は病氣や或は世の詰らぬ流行や、三越の店に下がる切一枚でさへ、靈性の下がる如き意氣地なき敗北者であるが、耶蘇は自然界の勝利者である。何處に耶蘇が自然界の爲めに頭を下げて壓迫された事があるか。彼は雲上に上るまで外界を引廻し征服して居られた。雲に乘つて歸るが、

文字に拘泥せずして精神に於て之を見るに慥かに耶蘇は凡てに勝利を得て天に上られしを信ずるに足る萬物は神を愛する者の爲めに働きて益をなす、萬物は汝等の物なりとは耶蘇の御陰を蒙つた者の告白と見てもよい。我々が神と葡萄の樹の如き關係を持つならば、凡ては我々の手の中の物、支配し得るものでなければならない。我々信徒は僅ながら自然界に勝つた其力や、精神上に勝を得た經驗が有るに相違が無い。是は大なる勝利の力を得んとする手附金、又見本の樣な物である。

耶蘇は又罪に勝たれた。罪は耶蘇に對して役に立たぬ、齒が立たぬ。皆跳返された。誰も彼が罪に對して敗北したとは思はぬ。又耶蘇は人の罪を釋されたとは不思議な事でないか。それのみならず彼は情慾に打ち勝つ力を罪人に與へ、新しき生活に進ましめた事實。或は十字架上にて人の執陋なる心に勝たれ終に死に勝たれた事は實に不思議である。死は耶蘇を全く押し伏せたが、彼を如何ともする事は出來なかつた。我々耶蘇の復活に就て種々なる六ケ敷い議論をする事もあるが、然し耶蘇は死んで居らぬ。只に耶蘇自身が死に勝たれた而已でなく、今日も耶蘇卅年の歴史で死に勝つた人が數多あり、彼等はとても普通の人の出來ぬ樣な死に方をして居るのも實際であらう。「死よ汝の刺は何處にありや」とホーロの云ふたのも、耶蘇の勝利者たるを證明したに過ぎない。斯の如き耶蘇が即ち基督教の基礎、柱石、本旨、根本及生命である。是は耶蘇基督に依つて生活するは人生最上の感謝と云はねばならぬ。



基督教の二倍主義

横濱海岸教會牧師　笹倉彌吉

私の預かつて居ります教會では毎年標語を作る習慣になつて居ります。それに依つて教會員が益々向上して行くのであります。今年大正六年度は果して如何なる標語を作つたものでありませうか。之を選ぶに誠に心配で御座いました。扨之に依りまして屢々祈り懇に考へて得た處のものは馬太傳の五章四十一節であります。「人汝に一里の公役を强いなば之を俱に二里行け」又「爾に求むる者に與へ借らむとする者を卻くる勿れ爾の隣を愛しみて其敵を憾むべしと言へる事有るは爾曹が聞きし所なり」と此の言葉は惡に敵する事なく汝の敵を愛せよと具體的に說かれたのでありまして又「人若爾の右の頰を批ば亦ほかの頰をも轉らして之に向けよ爾を訴へて上衣を取らむとする者には下衣をも亦取らせよ」とも云はれてあります、主耶蘇基督の一里の公役を强られたならば猶二里を行けと云はれた其言葉を基として私共の教會では「二倍主義」と云ふのを標榜し今年はあらゆる方面に向つて二倍の力を以て發展する樣に約束致しました。

此二倍主義を執るに至つた所以は米國ユニオン神學校にフオスデツクと云ふ人があります。此の人は「セコンドマイル」といふ書物の著者でありまして、此書は馬太傳の五章四十一節を基として書かれましたもので强く懇に「エキストラサービス」即ち自分に與へられた事計りでなく進んで分外奉仕といふ事を爲さねばならぬ事を敎へた本です、例へば主婦が私は一軒の主婦である故にこの家を立派に守つて居さへすれば良い、といふならばそれでは何の取

り立てる處もない。更に進んで世の多の人に對しエキストラ、サービスせねばならぬのであります。私は學校の教師だから教壇に立つて生徒に教てさへ居ればよい。さうではありません、矢張エキストラサービスです。基督の筆法は皆それなのです。フオスデック先生の著はされた書には此事が誠に面白く說かれてあります。傳道の仕方でも二倍主義です。聖書を讀むのもさうです。幸にして此二倍主義を忘れず、漸々と信仰が增して行き、昨年よりは今年は二倍今年よりは來年が又二倍となつて行かねばならぬ彼の忠臣藏に合ひ言葉といふのがありませう。即天川屋儀兵衞の名を忘れぬ爲に、皆互に申合せて置て天と云へば川といふ、そして其が同志の人であると云ふ事を知り合つた。其合言葉を用ひた樣に二倍主義も矢張それである。「もし〳〵貴方の家は二倍主義は如何ですか」「どうです二倍主義は」何處へ行つても二倍主義といへば話が通ずる樣にせんとするのが、此書物の本旨であります。思ふに主耶蘇基督は此主義の方であつたのです。西に東に種々なる繁雜を忍んで熱心に奔走され、總てにお盡になりましたが是も分外奉仕です。

世間には自分に依賴れたものでも不精々々に爲し或は又半分で止める人もある。又中には賴まれたより以上に爲す人もある。是等は皆各自に顧れば好く分かる事であります。基督の二倍主義は「人若爾に一里の公役を强なば之と階に二里行け」です。基督は如何なる者が如何なる迫害を加へ樣とも、其等の敵を愛せよと仰せになつて居ます。路加傳六章卅八節「人に與へよ然ば爾曹も與へらるべし彼等量を嘉して搖入れ撼入れ溢るゝ迄にして爾曹の懷に納めん。」

世間の人が自分に親切にして吳れないと、不平を云ふ人がある、果して其人自身は人に對して親切でありませうか。敎會は愛の國體だと云ふ。扨入つて見ると左樣でないと云ふ。其人先づ己れに人を愛する愛の心があるでありませうか。私が人に親切な

ら人も亦私に親切です。私が人を愛するならば、又人も私を愛します。「徳は孤ならず必ず隣あり」と古の聖賢も云ふて居る。家庭の事も皆左樣です。圓滿、清潔、平和な家庭は耶蘇も共心地よく思召すのです。耶蘇を宿すに足る家庭は、互に家の者自ら與ふる事を爲ねばなりません。然して己に與へられるのです。エマソンは「萬物は皆二つの物、彼と是と相對して居る者である他を潤ほせば我も亦潤ほされる。與へて然して取れ、是は絶對の天秤なり」と叫んで居ます。絶對の天秤とは動の取れぬ掟である。人は與へる事を爲ないで取らふとするから、度々間違が起るのである。山師と云ひ濡手で粟といふ皆それである。私共が此絶對の秤に掛つた時は如何でありませう。吾等には封袋でなくて自己の重が無くてはなりません。神樣も此絶對の天秤をお持ちになつてゐられる。「我等善を爲すに倦む事勿れ、――涙を流して出て行けば束を携へ歸るなり――(詩篇)私の知つて居る一人の婦人があります。その夫は放埒な人で横濱の株式會社へ出て居ます。教會へは一二度來た事がありますが、何の爲に來たか分らない。妻なる人は誠に厚い信仰を持た人で、今日迄色々と夫の迫害に好く耐へ忍んで來たのであります。彼女は常に生傷が絶えない有樣です。併し彼女は涙を以て夫の爲めに種子を蒔いて居ります。私は基督の十字架を思ふて辛抱なさいといふて居ります。けれど時には「最う自分は斯る夫とは別れて獨立して暮した方が良いと思ふ事もあります、けれど又之を忍ぶが最後の勝利を得るのであらうと思ひ返して居ます」と云ふて話します。賤しい女が直ぐ一二丁脇に圍つて在ると云ふのです。そして主人が妻に「お前は教會々々と云ふが教會へ行つて何んの役に立つのか」といふて叱る事があると「私が教會に行つて教を受けて居ればこそ斯うして何事も耐へ忍んで居るのです。若しさうでなかつたならば私は彼の婦人をあの儘では置きませうか――」と云ふたさうです。私もさうだと思ひました。茲二三年此婦人は斯うして

暮して居ます。私は何時か刈り取る秋が來るであらうと樂んで居ます。倦む事さへ無ければ、何時かは刈り取る事が出來ます。與へて取る絶對の天秤。皆神樣の方針であります。

人が搖入れ撼入れ溢るゝ迄にして私の懷に納れて吳れる。是は矢張二倍主義の報であつて、私共が神の天秤にかけられた時に、果して今迄にどれ程人の爲に盡したであらうかが分るのであります。本年は信仰に事業に將た傳道に總べて努力したいと思つて居ります。基督は常に一里を强ひられたら二里行け。與へよ然ば與へられんと仰せられて居る。是等は二倍主義の手本として努力すべき處であります。

基督の二倍主義の極點は十字架であつた。實に是等は何倍であるか量る事は出來ないのであります。其の廣さ、深さ、高さ、實に吾人は終に基督の如く有りたいといふ理想は男女共にそれにあるのであります。己等先づ自らを卑くして、基督にもまた他人にもよく事へる。例へ人の犧牲となる如き十字架は實行されないまでも、三度祈つて居たなら六度、聖書を二度讀で居たなら四度といふ樣に、獻金にしても左樣です、總てに二倍主義を行つて行なつたならば、何時かは此日本五千萬の同胞が敎化されるのであります。倍々と云ふ事は實に恐ろしい增加率を示すものであります。我日本基督敎會では昨年は五千人の信者を作りたい考であつた處が三千人しか出來なかつたといふ。年平均二千五百人の割になるのです。この樣な事では仕方がありません。我々は大に努力して今年は昨年より二倍の信者を作らなければなりません。

勵みて主の
事を勸めよ

ヴヰットリア・コロンナ

妻として＝ペスカラ侯爵夫人
ミケル・アンゼロの友として＝伊太利の女詩人

林　靜　太　譯

（つゞき）

遮莫吾人はヴヰットリアの教育に就いて多くを知らないけれども、斯く諸名士の卓論高說に耳を欹てること每々であつたから、學識の深邃であつたことは全く疑ふの餘地さへない。又其師とする人の何人であつたかも、當時の記錄に殘らずして知るに由なし。されどヴヰットリアの胸に、甘い樂しい記憶となつたところの、幼兒の生涯の此の幸福なりし時代や、其高邁なりし精神や、談笑や、無邪氣なる物語は、今吾人が想ひ見てもなつかしみ禁じ得ざるものがある。彼女は心身の美彌が上にも美はしく生ひ育ちた、かのチチアン（譯者曰、イタリー、ヴエニス派の大畫家、一四七七――一五七六）の描いた、大なる褐色の眼した、金髪の暈被ぶれるローマ婆の美少女も斯くやと許りであつた。

此時に當つて、重大なる社會的事件は櫛の齒を引くが如く瞬く内に發生した。其後僅々三年の間にネープルスに君臨した王が五人もあつた、而して當時の最勇者たりし其父ファブリッツジオは朝三暮四、昨日は彼方に味方せるかと見ば、今日は此方に轉じて居た、而も戟を收むるの隙さへなく、と云へば當時興亡の常無かつたことも殆んど想見し得られる。斯くして星移り物變り、驟て騷擾の聲戰亂の飛沫は、遙にイッシアのアルカヂアン島に迄も及び來つた。

ヴヰットリア十一歲の時、彼女はフランスから逃遁し來つたアラゴン最後の王、フレデリックを睹たのであつた。

流竄の運命に遭ふた王、女王、及其姉妹の人達はフランコヴヰラ公爵夫人の環海宮殿に數日足を留められた。滅びゆく君王の光景は實に悲慘とも何とも云ふべきやうなく人生の衰壞零落と云ふものを染々

と、此少女の心に知らしめたであらう。此訪問はヴヰットリアの生涯に取つての、重大なる感化の一であつた。次に數年を經て、ヴヰットリア十六歲の時スペインのファーヂナンドの宴に列席すべく、義姉に連れられて、ネープルスに赴いた。當時の記錄には、此盛典を祝する群集の壯觀なりしことが、詳細に表はされて居る。それに據れば、全市宛ら鼎の沸くが如く、新王を見んものと聚ひ來つた。金色の天幕は海波に映發して壯美言はん方なく、見事なる花布掛けし賓客の席は路に沿ふて調べられ、其上に錦襴や繻子の衣服を着し、寶石の光輝燦として目もあやに粧ふたる貴婦人等は列席した。中にも衆目の中心點となつたのは、フランコヴヰラ公爵夫人が、左に金髮のヴヰットリアを、右に黑眼の弟フランセスコを控へ居れる樣であつた。而も少女の美貌にして聰き顏、其夢見るが如きあどけなの雙眸は、一段の嘆賞を得たのである。ルネサンスの奇異なる迄の惡德輕蔑の風を、彼女が目擊したのは實に此時が最初であつた。

フランセスコも亦英姿颯爽たる好少年で、既に靑年士官の意氣の權化とも見るべき面影があつた。フヰロカロの『ペスカロ侯爵傳』(Life of the Marquis of Pescaro Filocalo's)を見るに、宴會の後舞踏は始まつた、中に若いフランセスコも混つて居た。其技の非凡なのと莊重なのとが、王の目に留まつた。暫時は見惚れて居給ふたが、遂に彼の少年を呼び出せよと侍者に命じて、聲も高くフランセスコに、其動作容貌より察するに、彼こそは實に其周圍に在る人々よりもより偉大なる將軍たるであらう、即ち『若し吾が觀察にして誤りなくば、彼こそ其周圍の者を凌駕して成功するであらう。と。フランセスコは、恭しくも亦嬉し相に、王が此幼弱い雙肩に置き給ひし過重の賞讃と信認とに背かざるべし、と應へた。恐らくは斯る晴れの舞臺の有樣に醉心地にさへせられつゝ、ヴヰットリアとフランセスコは早くも、幸福なる兄と妹との中間に書せられたる深淵を取り去

つて始めて熱情以て相愛するに至つた、而していはゆる成人の戀婦人の愛が生れた。フランセスコはそれより己が領地に歸り、後間もなく戰術修得の爲に青年貴族の入學する士官學校に入つた。又恐らく此頃ヴヰットリアも彼女の身分として相應な、高等なる教育の最後の課程を修めんが爲モリノに歸つた。

ヴヰットリアには既にフランセスコと云ふ一國の王の骨折によつて定められた夫あるにも關らず、其頃イタリーに於ける屈指の貴公子達の間に、此麗はしい少女の手を執らんとする者があつた、即ちサヴオーヂア公爵もあれは、フラガンザ公もあつた、然れども彼女の心は到底それに從ふべくもなかつた。あのイッシア島に長い間寢食を共にした遊び友達、フランセスコ、ダヴアロスこそ、それであつた。父母の心には其約を履むに更に何等の躊躇もなかつたであらうか？　父母は其娘の爲に少しにても權門富家を希望しては居なかつたであらうか？　法王が此事に干渉して、故障を挿むだのは事實であつた。法王は直ちに此問題に決定を與へた、而してそれはヴヰットリアの爲には歡びの、フランセスコと結婚することを許されたのである。磁針の常に北極星を指して居るが如く、嘗て變ること無く彼を指して居たのはヴヰツリアの心であつた。彼女の婚約は履行された、彼女の愛情は竟に彼のものであつた。後年寡婦となつた時代に彼女は、フランセスコの追想の爲に書いた短詩の一に於て、煩悶の極叫んで居る、「吾が心情凡て他の對象物より離るゝ時には、吾が精神は力無し、而して常に吾を養ふ光たりし其人の、秀美なる俤の外、吾が眼を喜ばしむるものとて無かりき」（ロスコー夫人の飜譯に據る）と。

斯て兩人は千五百九年の十二月二十七日に至つて華麗に結婚した。モリノに起臥して居たヴヰットリアは此時、其新郎の待ち待てるイッシアに向けて發足した。吾人は其光景を描くことが出來る――美服に包まれた明眸皓齒の佳人は、青年貴族の盛裝せる騎行に取圍まれつゝ華しい道中をなした、又そを迎

ふる花聟フランセスコの琥珀色の美髪と鬚髯は、其輝ける眼と、其誇かな態度と其武士的の風貌と相俟つて一段の光彩を添ふるものがあつた。

斯くして三歳の間、若夫婦は、或る時はネープルスに華奢の生活を送り、或る時はダヴァロス家領有の、ビエトラルバに閑靜なる朝夕を送つた、而も終始最も多く過したのはイッシアの島であつた。幼時より親んだ此最後の閑居は、夫妻に取つて他の何處よりも佳い土地であつた。其平和は如何にも完きものであつた。又彼等が其處に共に過した時は如何にも羨ましいものであつた！　フランセスコはヴヰットリアの理想の人であつた。此若い血潮の漲れる想像に豐かな少女に取つて、如何許り夫の精神の快活、透明、而して其異常な自信が嬉しかつたかは、吾人の想像し得るところである。夫を追想する爲に作つた其短詩に於て彼女は、常に彼を呼ぶにわが『太陽』と言つて居る。他を容れなかつた彼も、其妻にはすべての溫情であつた。彼等は常に偕に、常に貴族社會によつてイッシアに取圍まれた、機智の人、勇武の人、而して美の人、彼等は競ふてフランコヴヰラ公爵夫人の許に、即てヴヰットリア・コロンナの許に相集ふた。是れぞ頓て終らんずる完き幸福の夢幻の全部であつた。其當時の物語は、フランセスコの追憶に獻げられたる其妻の詩歌の祭壇に於て讀まれねばならない――此短詩こそ婦人衷情の活きた物語と稱せらるべきである。彼女は此等の短詩の中に『彼の麗はしく且喜ばしき微笑』に就いても述べて居る。此の夫が不歸の客となつた時、彼女は言つたのである『太陽も溫めず、又風も清鮮ならしめず。』『吾が美はしき太陽の消滅してよりは總ゆる事物に其常の美なかりき。彼は或る時代を飾り又豐麗にしたる最も輝きある光なりき、』（ロスコー夫人の飜譯に據る）と。『彼の死と共に吾も亦死せざるべからざりき。』と彼女は哀傷の餘りに叫んだ。

兎まれ然うした樂しい三歳の月日の盡くる時聽て、共にした研究も、愉快な伴侶も、長い密月の語

ひも過ぎ去つた。乃ち千五百十二年に、フランス王とネープルス王との間に戰端が開かれた。ファブリッジオ・コロンナは直ちに指揮官として、プロスペル・コロンナを伴ふて出陣した。フランセスコ・ダヴアロスも今や馳驅するの時でなかつた。彼が全身の血潮は榮譽の念に漲り、いはゆる骨鳴り肉躍るの感禁じ得ないものがあつた、ヴヰットリアは、夫が往いた後の寂寞想ふては、心は千々に碎かるゝが如くであつたとは云へ、彼女として如何で彼をば引留むべき、彼女は夫の出征を見送り、其の楯の上に『是れを以て、或は此上に』との題句、麗はしう繡りして與へた。すなはち彼は、貴族も其股肱と頼む勇士等の首腦部に在るところの嚴しく軍裝した義父に會すべく、直ちに出發した。今はヴヰットリアも彼等を見ることが出來ないのである、彼女は其人々の出征し去る迄は涙をも見せなかつたが、後では過ぎにし歡樂に對しての哀情に身を地上に投げて煩悶したのであつた。疑ひも無く彼女は衷心に、其榮ある愛の日の過ぎゆくを感じたに相違ない。

是れよりヴヰットリアは一先づイッシアに歸つて、藻思を練り、高尙な思想家と相交はつて、研鑽に熱中し、又感すべき自然美に憧憬しつゝ、安慰を得て居た。間もなくフランセスコは、騎兵隊の司令官に任命された。彼は斯の重任を帶ぶるには餘りに若年であつた、乍去流石拔擢の光榮に浴した程あつて勇氣と豪快とを以て能く其任を竭した。ヴヰットリアは其夫に就いて矜るところがあつた。四月、ラヴエンナに戰を交へたが、不幸にもファブリッジオ・コロンナ・フランセスコ共に傷き捕虜となるの運命に陷つた。然るにヴヰットリアは夫の身が斯る危急に瀕して居ようとは露思はなかつた。短詩の一に彼女が語つて居る所に據れば、その不幸なる日の朝、彼女は不思議と憂慮の思ひして、うと〳〵と其處此處を徜徉して居たが、其時恐ろしい又計り知れない暗黑が此（イッシア）の島を覆ふた。魘されたやうな預覺に襲はれ、其ことを義姉に語つた、すると

姉君は馬鹿げたことをと一向に取合はない。『そんなことなんか何でもありませんわ。』然るに然るに實に不幸なる報知は來たのである。

海外留學者の責任

トロント　坂本花代

大正五年の七月迄は繪の樣な瀬戸内海の沿岸で靜な平和な生活、九月末よりは私の思ひ設けざりし樂しい學生生活を繰り返し甲斐ある樂しい生活、然しトロント大學に於ける始めての日本女學生なれば責任も重かりしかど先づ〳〵九月より十二月迄の一學期間は身體も壯健に樂しく過ごしました私の馴れぬ化學には隨分困りましたけれど苦しみの半面には希望と樂しみ忍耐といふ事を敎へられて、小さいながら日本を代表せる心地しては愛國心も增して行きます、外國の樣子を見るにつけ日本の女子も盛んに向上心を持つて智識に於て德に於て愈增し進み給ふ樣いつも〳〵祈つて居ります。風俗習慣も違ひますので田舍者の私には一入面白く、又私と同時に入學せし支那人のミス陳と感想談を致す時は誠に面白う御座いましてミス陳は快活な飾氣のない可愛らしい人で私の仲好で御座います隨分二人で滑稽な事を致します。先日眞面目に種々なる事を話せし時、ミス陳は支那人の日本人に對する感情は餘り好くない、日本人は只金儲の爲めにのみ支那に來て親切心が乏しく、中に甚しい日本人になると支那人の店で買物をしても金を拂はず、仕舞は喧嘩、裁判沙汰、時には酩酊して見苦しい風で市街を往來し、日本の或婦人はお酒店の給仕になつて男子にお酒を進める等風俗を亂す事が多いので一時、學生間では非常な問題になつた位です、お金を儲けると同時に支那人の開發の爲めに盡して貰ひたい。西洋人は六ケ敷い問題も政府に持ち掛けお金も儲けるが又一方に民間に於て宗教に教育に非常な力を盡して吳れる故一般に今は

人民が惡い感情を持て居ない。支那の國は丁度寶庫であるから日本から立派な人々に來て貰つて開發をして頂き度いと話されました、私共女としては大問題の樣なれど實際男子の半面に力を持つて居る女子只の空談として一笑の下に附し難く、弱きを助け導く美しい心を持つて助け度いと思ひます、先日の加藤樣の御手紙に支那人、朝鮮人の爲め云々と云ふ事を見て誠に嬉しく思ひました、ミス陳も私と話して日本人と支那人と似た點も分かり二年後歸國の際は必ず一二週間日本に立ち寄り種々見聞致し度しと申して居ります、同氏は私と同じく家政學の研究生です私は時々處々の教會の婦人會に招かれて參りますが男子は銃を取つて居る國家多端の軍國に於ては婦人の傳道會等は中々盛で御座います、一方赤十字社に關連して中々活動をして居らるゝ樣子です。一學期間の學生生活には隨分面白き事も多う御座いました、先づ四年生の御方や女子青年會の靜かな優やかなる歡迎會に引續き二年生三年生の滑稽と奇才の滿ちたる歡迎會(イニシエーシヨシ)一年生の遠足これも日本のと違ひ朝、サンドウツチなど辨當拵へなど致して午後三時頃出立致して夕食を頂いて夜の九時頃歸る仕組、澄み渡りたる秋の日に田舍路を辿り淋しい夕方焚火して溫まりつゝ歌ひ或は語り時には面白いゲームも交り、やがて食事時になると男學生の方々の御奔走にてコーヒーを造るやら御馳走を出すやら日本ならば女のする事を東西の違ふ點かと異樣に感じました、ヴイクトリヤ大學內の男女青年會、文學會の催しのリセツプシヨン恰度金曜日の夜皆樣の美しい夜會服、私は日本の裾模樣の着物に帶で出席致しました、廣いホールは見事に裝飾せられて美しい姿の方々。此集りを此儘寫眞にとつて御目にかけ度しと思ふ位、此頃私の友人がプロムネードの事を親切に申して呉れましたに私には此言葉が分からず、プログラムですかと隨分滑稽な間違を致しました、寄宿舍內のハロインパーテーにも日本の幼い友を招き度と思ひました、百人以上の御方々が各自の

好み思ひ付きでチーフ、赤鬼、青鬼、兵士、紳士、美人、老婦人、尼、少女、少年、巡査等種々の裝ひをこらし、魔法使もあり黑猫があり色々に裝ひて私共の接待役、種々なる工夫をこらした面白い接待振には感服して仕舞ひました私の友人なるカナダの女學生等を如何に評して宜きや實に言葉になく奇才と滑稽趣味に滿ちた人々と申すの外なく自分は斯る點に於ても人を喜ばせ樂しませるといふ才能の乏しきを遺憾に感じました。

大學の學生に社會の實地を見せ忙しき學科にのみ嚙り付いて居る生活の慰みにもと大學のセトルメントハウスが貧民の住める區に設られ、學生の中にて有志の人々が行きて働らいて居ります、仲々面白き働き私も今少し馴れたならば深く入つてお助するは六ケ敷くも皆樣の御指導にてお土産に致し度と思つて居ります、大學會の時には議會に眞似た仕組にていつも討論會があり中々面白う御座います、先頃大文學會の時には、男子も家政學を研究すべきかといふ題にて討論あり、投票するといふ處で終り聽衆の中には男學生も交り居りし事とて殊更面白味も多く又先頃はヴヰクトリヤカレーヂと、マリマスターカレーヂとの間に討論會催され「合衆國の離婚法律を加奈太に採用すべきや否」に付きて討論あり兩校より二名宛出でゝ討論があり隨分面白く御座いました。

毎週火曜日の八時より氷滑の競技ありて忙しい〳〵と居つて居る私も一時間は大抵見物の爲め過して仕舞ひます、皆樣も忙しい〳〵といひながら遊ぶ時には好くお遊びになるのでこの點は大に學び度と存じこれのみは私も既に當地の風になり濟しました、廣いヴヰクトリヤの運動場はスケー場となり月水金土の午後と夜には樂隊があり、外部よりの大人子供も氷滑りに參ります、始めての夜は私の窓の恰度下でありました勉强時間も樂隊の音絶える事なく人々の樂し相に滑り行く樣を見て、夢か活動寫眞かを見て居る如き心地致し早速ミス陳の室に行つて、

「貴女は如何な氣が致しますか、勉强が何時も通りに出來ますか」と尋ねると「イヽエ」と私と同じ事、自分もやつて見度くて堪らず、ミス陳と私と友人に誘はれスケートの靴も借り物で土曜日の夜出掛けて行きました兩側に二人の友を控へ、始めて滑つた時の嬉しさ外の寒い風は實に心地よく、銀を散した樣な星の夜、電燈の光映ゆる雪の世界、樂しい夢の心地致します。其夜は學期末にて忙かつたにもかゝはらず、初めての者には練習が必要と、よく勉强する丈け運動も必要と試驗もあるのに四日間は毎晩四五十分間宛練習に出掛けやつと一人ならば一間程滑り得る樣になりました、誰かと二人ならば美事に滑ります、いつぞや大呑樣よりお聞になつたヴイクトリヤ大學に御留學して居られて今は從軍して居らるゝ日本人某はスポートで學生間の評判がよかつたとの事私は確に其二代目を繼ぐ事と思はれます、津田先生が劍橋や牛津大學の學生の試驗には四五日間は旅行などして落ち着いた勉强振りを常に賞揚して居られましたが當地のヴヰクトリヤ大學のアンズリーホールの方々にも實に悠然たる態度にて明日は試驗が二つもあるなどと云ひながら夕方には二時間もスケートに行き最後に樂隊の奏する英國々歌の時まで居らるゝ方々も多く日本人の私には不思議に思はれる位、机に噛り付くかまぼこ的の勉强する人は少く餘裕ある勉强振には自分も學び度いと感心して居ります。日本人のよい處もつまらぬ身ながら傳へ當地のよい點もお土産に致し度など考へ居ります、過去の生活に比ぶれば實に大變化ある現在の生活、思ひも依らざりしクインスパーク內の靜かな美しい處で繰返す學生生活只感謝の念に滿さるゝのみで御座います、砲彈の中を勇進する日本人は女でも生半熟な勉强はせず出來ながらも忠實に勉强したといふ歷史を殘し度いと答へらるゝ道を忠實に辿つて居ります、故國を離れ一人の母を離れ神に一人近づき行く心地致しいつも神樣の御下に祈りに於て一つとなり居る心地致し凡て深い〳〵神樣の御心、快く笑みつ

と答へらるゝ道を進み度いと思ひます。皆様も私共の爲め常に御祈り下されつゝある事と心強く思つて居ますいつも世界の女子青年會の爲め殊に日本の女子青年會の爲め祈り居、感謝の中に送る千九百十六年大正五年、明日より新なる大正六年も感謝の中喜びの中に迎へ皆様の上に一入御恵の豐なる様祈つて居ります。

舍内の信仰的傾向

女子青年會第一寄宿舍々監　門倉藤子

東京牛込區納戸町四十五番地にある東京基督敎女子青年會の寄宿舍を永らく監督して居ります私には昨今舍生が進んで敎の方に心を傾ける様になつた事を深く感謝致して居ります。毎夕あります家庭禮拜にも舍生一同が喜んで出席致します、以前は中々斯ういふ風には參らず、成可く其時間に隠れる様に或は何か口實を設けて缺席し様といふ者も少なくなかつたのですが、此頃では皆喜んで出席し日曜日の夜交る〳〵お出で下さる先生方の御話にも大喜びで待ち受けて耳を傾ける様になりました、隔日曜日に渡邊百合子氏が御出になり、其外西洋人の幹事方が夕食を共になさいます。そして植村環、松宮彌平、木岡甲子男、外村義郎の諸先生がお話に御出で下さいますので、誠に良い宗教的教育を受ける様になりました。日曜日の午前も大勢教會へ出ますので、從つて舍内の空氣も非常に良くなつて參りました。此精神を繼續して參りたと思ひます。玆に一つ二つ舍生の信者になつた事柄を申上げて見たいと存じます。

大正二年二月初めて上京致し直に當方に寄宿致し女子藥學校に通學致して居りました一人の娘が御座いました。性質極めて快活に天眞爛漫とは實に斯る人の事を申すのであらうと思ひました。其後學校も成績良く卒業致しましたが、是より藥劑師の資格を

得る爲め文部省の試驗を受けねばならないのでした。此試驗は仲々六ケ敷いので容易く合格する事は出來ません故覺悟して掛りましたもの丶、矢張一二回は無駄骨を折りましたので、或は居る場所を替へたならば時間に制限も無く宜しからんと友人の家に寄寓せし事もあり、又或時は學校の先生の家に居りました事もありました、丁度其先生の家に居りました時、如何しても神の御力に賴らねばならぬ事を悟りまして、同町内にある麴町敎會に參り受洗致したき由を牧師に申出でました。牧師は一二回敎會に參りし娘が直に受洗を希望致しましたから不思議に思はれ、其信仰の起源を尋ねました處、女子青年會の寄宿舍に居りし時、敎を聞きしが、此度決心せし由を申述べました牧師は之を聞き非常に喜び受洗につき快諾を與へられまして神の家族の一人に加へられました。それは大正五年三月五日の日曜日で御座いました。受洗後は再び寄宿舍に戻り、一層好く勉强致しまして五年九月の文部省の試驗に應じました處首尾よく前期の試驗に合格が出來ました實に非常なる欣びにて兩親を始め多くの友人等より祝詞もかず〳〵參りました。本人は只管神の御恵を感謝致しまして申しますには自分は斯く迄眞面目に神の御助力を求めつゝ祈りて勉强する故神は必ず確かに御助け下さる事を確信して勉强せしに矢張神は其祈を聞き上げ給ひましたと非常に感謝致して居ります、其後信仰益々進み又來るべき四月の文部省の實地試驗に應ぜんと專心勉强致して居ります。一同も又其成功を祈つて居ります。

此外私に個人として參りました手紙でも中々喜ばしいのが御座います。公にするのも如何かと存じますが、この寄宿舍に取つては非常に勵ましとなる事ですからその儘玆に掲載致しませう。

「昨年の今頃先生の御傍に參りましてお柔しい先生を始め皆樣に色々御世話になりましたのもはや一年になります。私は神の愛に救はれあの樂しい舍生活が出來ます樣になつた其當時は境遇や其他種々なる事情の爲め神の愛を知る事が出來ませんでしたが舍に居ります間は基督敎信者は皆善良な人計りである自分もなり度い

と思つて居りましたがまだ救はれたのではありませんでした。舍を出ましてから富士見町教會へ二三度參りました、越後へ歸りましてからも取込んで居りまして五月の末北海道へ參りました、八月の中旬まで斯地に滯在致して居りました其間も常に教會に計り參つて居りました、越後へ歸りましても教會へは日曜禮拜は申す迄もなく夜の傳道集會水曜日の夜の集り等かゝさずに參つて居りましたが先月二十九日に洗禮を受けました。先生何卒御喜び下さいませ、私の信仰に這入うと思ひましたのは舍生活を致しまして先生や皆樣の愛に感じてからで御座います、私が牧師に問はれました時も信仰を起しました時の事を申しますと其方々の愛は自分が愛を他人に施さうとするのでなく基督教信者其方々の愛は即ち神の愛であると云はれました、上京致しました事に依つて私の一生涯に取つて幸福な信仰を得ました事を喜んで居ります、此頃は私共別に職業を持つて居りませんので教會の爲めに出來る丈け盡し度いと思つて居ります牧師は西健二氏と申されます。齋藤勝子

又右齋藤氏の御良人からも左の手紙が參りました。

私共の家庭は祝福されまして勝子も先月洗禮を受ける樣になりました家族は三人切りてす、母も頓て救はれる事と信じて居ります私は此地の日本基督教會へ轉會しましてから日曜學校の音樂から禮拜の奏樂讃美歌全てを受け持つて居ります、尚毎金曜日の夕には牧師の方に來て頂いて聖書の講義を聽かせて貰ひます、今當地は目下傳道の戰闘準備に忙殺されて居ります。此の火曜日から金森通倫氏が見えますそれがすむといよ／＼母教會の植村先生が本月二十四日から二十七日迄特別傳道に御出て下さる筈てす、私共は傳道の一兵卒として牧師を助けて大に戰闘準備に勉めて居ります、勝子が先生の舍に御厄介になりましたのは時日に於ては短かいものてしたけれど今日にして想へばあの短かい時日の間に受けた感化は大なるものでした、彼女は意識しなかつたけれど神の愛を知る事が出來たのてした、實に彼女の信仰生活の第一歩を先生の舍に於て踏み出したのであると考へます時に私共は實に感謝に堪へないのであります。

斯る美はしい信者の家庭が日一日と增加して來るのは慥かに御國の建設の基礎と思ひます、私共寄宿舍から信徒の家庭を作られる婦人方が世に活躍する樣になるのも慥かに神の祝福に外ならず私共女子青年會の本旨であります、時々此樣な事柄を申上げて同情者に私共の舍內生活を御知らせ致したいと思ひます。

我等の友加藤貞子氏

（貞子氏は東京女子青年會幹事加藤高子氏の令妹なり）

大井一郎

春花の娟々たる誰か蕭殺たる秋風の忽ち襲ひ來るを思はんや匂ひ初めたる新月の未だ天に冲するに及ばず、早く既に忽焉として餘光も留めず、地平の彼方に沒し去るを思はんや。古昔より言あり「偉人は短き傳記を有す」と嗚呼淸き人美しき人、地に在りて天を

慕へる人の何故に然く呪はるゝ事の多く地に在る事の短かきやさはれ地にある事の短きは天にある事の長き也。限りある生涯の速かに終るは限りなき生命の速かに來る也。之を思へば聊か慰むる術の無きにしもあらねど唯々うら若き加藤貞子の君の追悼の筵に於て其美はしき短き生涯を思ふ時止め敢へずはふり落つる涙を如何にせんや。君は加藤勝彌氏の第六女として明治二十七年二月二十二日、東京の邸に生れ給ひぬ、生れて四五歳兩親に伴はれて新潟縣村上町に來り次て本町小學校に學び業を卒へたるは明治三十九年なりき。性質活潑にして男性の如き雄々しき氣象を備へ而も優美なる女性の美質を失はざりき。後出でゝ高等の學校に學び時に歸省して本町校同窓會に臨むや、常に幼時の姿を失はず、同窓生と共に活潑に嬉戲して舊友舊師の好愛する所となる以て君の資質の淳良なるを知るべし君性頗る學を好み、特に理科學に多大の趣味を有し其高等小學を卒るや高等の女學校に學ばんと欲し、之を父母に懇請して止まず、父母戯れて一個の條件を提出したるに眞面目なる君は之を果さんとして風雪を犯して奔走したりといふ、以て君の學を好む如何に熱心なりしかを證すべし。明治四十一年鶴岡高等女學校第二學年に入學、四十四年優等の成績を以て卒業し官選に與りて同年奈良女子高等師範學校に入學、理科に屬す。蓋し教育家たらん事は君が夙昔の志たりしなり。父母の喜び如何計りなりけむ、大正四年三月規定の學科を修了し、文部省より中等教員たる免許狀を受け、直に聘せられて富山縣氷見郡立高等女學校教諭として任に赴く。君が同校に在りて如何に熱心に生徒を愛し如何に誠實に職務に當りしかは其臨終の狀能く之を證す。君の病むや母君は直に赴き看護する事六日此間君は常に學校の事而已を口にし居たりと、又君の病重りしと聞くや、時正に冬季休暇中なりしに拘はらず數十の生徒學校に留りて晝夜看護に從事し、君が父君の急を聞いて病を看るべく同校に赴くや、數十の生徒門前に出迎へ恰かも己が父を迎ふるが如く異口同音に「まあ嬉しい」との聲を發したりと、校長を始め同僚職員一同君が病を看る事眞に父母兄弟も啻ならざりし、事又葬儀に際し生徒一同悉く涕泣し、一人も面を擧ぐる者なく其告別を行ふや總代を立つる議ありしも生徒之を肯ぜず、悉く君が遺骸を拜し、別を告げたるが如き、平生生徒の薫陶宜しきを得職務を執るの誠實なるにあらずんば如何にして斯くの如くなるを得んや。

君又同胞に對する熱愛眞に掬すべきものあり、君が令弟昨春村上中學校に受驗するや時恰も歸省中なりし君は日夕令弟の準備を督勵し、其休暇滿ちて歸任せんとするや若し令弟の優等の成績を以て入學許可を得たる時は直ちに電報を以て報ぜん事を家人に約したるが如きは、如何に其愛心深かりしかを見るべし。昨年八月、君は良緣を得て山形縣人にして南滿洲鐵道會社員鈴木正雄氏と婚約を結ぶ、今年三四月の候を以て華燭の典を擧ぐべかりしに今にして此事ある眞に遺憾の極表示すべき言葉を知らず。君が病は實に俄然として起れり、君元來體質强健にして嘗て重く病めりといふを聞かず、然るに去る十二月二十日より頭痛を覺えたるも、時正に冬季休暇前に當り、校務多端なりければ病を押して執務し、遂に二十三日午前終業式前に至りて一切の校務を果し了りて而も初めて病臥す君が同僚の弔詞の一節なる「精勵恪勤」の四字は實に君に於て生ける典型を見る、而して其午後熱は既に四十度六分を示す、君は眞に殉職の士といふを得べし。二十五日母君の病を看るべく赴くや見舞として數個の美果を携へたり、君は此時既に之を食する能はざりき。然れども母君の好意を喜び一半を割いて後日平

癒を待つて食さんと云ひ且つ一半を割いて校長に贈りて平素の好意を謝さんと申出し如き其如何に平生上に仕ふる志の淺からざりしかを知るに足る。それより病次第に重く超えて三十一日午前四時半此世を辭する迄病苦を父母に知らさじとや毅然として苦を訴ふる事もなく、唯父母が神に一切を委ねて安心せるかと問ふに際しては笑を含みて甚だ明瞭に其旨を答へつゝ靜かに〳〵此世を辭したる姿は又なく尊かりしとなん。君は實に信仰の人なりき、氷見高等女學校教諭たる事一ヶ年九ヶ月、此間君が無言の感化は同僚を基督教徒たらしめんとせり、佛教盛に行はるゝの地、特に教育界の事とて此點に於て不如意なる事のみ多き間に際し薔薇の在る處、地も香ばしく其感化は遂に基督教の力を認識せしむるに至り高岡なる牧師岡部氏をして氷見に傳道するに足場を得せしめ眞に信仰の雄者たる實を表はしたるは賞讚すべき事實にあらずや。君は未だ結婚を爲さゞりしも熱心なる基督教徒と婚約し、其葬儀に際しては海外にありて之に參する能はざりしも懇篤なる電文を以て讃美歌と聖句とを手向けられたるは君の靈亦以て慰むる處ありしなるべし。

嗚呼此信仰厚き勇者此世を辭して玆に半月親戚知友追悼の典を催すに當り君が美しき一生を回顧し、轉た感慨に堪えざるものあり、聊か記して追悼の料となす。（大正六年一月十五日）

又左に貞子氏の父君加藤勝彌氏より當女子青年會に寄せられし書簡の一節を擧げて同師を偲ぶと共に其の信仰に富める家庭の美を紹介せん。

今回貞子遠隔の任地に於ける出來事なりしも彼の地の先輩同僚及生徒が云ひも盡せぬ厚情を寄せられ何等不自由なく諸事豫期以上の運を遂げたりしは全く神の大能の御手が何地にも充ち〳〵たりしを實驗し感謝仕候葬儀に際し司式者岡部牧師の熱禱に打たれ數十名の生徒が均しく嗚咽の悲哀を傳へたる時は父母たる私共も忍び兼ね涙袖を濕し候、又生徒總代の一女子が弔文を朗讀せしも半ばにして哀涙双眼を蔽ひ一時中止の餘儀なきに立ち至りたる等貞子が彼地にて愛慕せられし一證かと自分免許に嬉しく感じ申候。今回の別れは親子としての愛情より痛惜千萬なるも元より主に捧げ奉りし身靈なれば人事を盡したる以上の成り行きは必然主の深き御聖意の在る事と確信致し只管從順に御任せ申候、彼地に於て納棺式の翌夜故人の友人と棺側に小集せし際拙生は舊約聖書サムエル後書十二章十五節より二十三節迄を引用して基督の死に對する信念を相談り申候。

不思議な子供（續）

袖山愛子譯

又の日此子供は今度は蜂でもなければ百合でもなくもつと役に立たない餘計な事だと思ふ事をして番兵を驚かせました。其は炎熱金石をも鎔かす如き一日。太陽の光線は番兵の甲冑の上に直射して恰も彼は火の衣を着て居るかと思はれる程に照り付けられ

往來の人には彼は火責の拷問にでも逢つて居る樣に見えました。血走つた眼球は、今にも溶けて流れ出でさうで、唇は乾き切つて縮み上がつて居ました。然しアフリカ砂漠の炎熱にも慣れた彼はこの位何んでもないと思つて平常の場所に突立つて立退かうとも致しません。寧ろ反對に自分は斯程迄頑强であつて太陽の熱射をも敢て驚かないといふ所を通行人に見せつけるのを愉快に思ひました。

彼は斯樣に立ち續けて居て、自ら好んで焦熱地獄の苦しみに身を任せて居りますと、何思つてかいつもの樣に牧場で遊んで居りました例の子供は急に番兵の處へ馳せて來ました。子供は元より番兵が自分の友達でない事はよく知つて居りましたから成べく番兵の槍先が屆く處へは行かない樣に注意して居りました。然し今は常にも似ず番兵の前へ來て熟々と番兵の顏を見て居りましたが、急に彼方へ全速力で走つて行つたと思ふが中に、彼の小さな兩手に一掬の水を掬つて返つて來るのでありました。

多分此兒は自分で行つておれの爲めに水を持つて來て與れたに違ひない。此の兒は常識がないにも程がある。苟もローマの兵士と生れたものがこれ位の暑さに辟易すると思つて居るのか、馬鹿〳〵しい。何で此兒は賴みもしないに餘計な世話をするのだ。己れはこんな者の助けなぞ要らないのだ。こんな心掛けの兒や斯う云ふ性質の奴輩は皆此世界から無くなつて仕舞へばいゝと思つて居るのだ。人を馬鹿にするにも程がある。

子供は靜かに〳〵掬んだ水が手から溢れない樣にと、其手と其水から目を離さないで、苦り切つて突つ立つて居る番兵の側へ持つて來まして彼が如何なる顏をして居るかも見ないでその水を捧げました。

途中其子供の金色の房々とした縮毛は、うるさく額に下がつて來て、目の上に覆ひ被さりました。彼は度々頭を振つて毛髮を拂ひのけて居りました。がやつと番兵の許まで來て其顏を見上げました時に、彼は番兵が如何に不機嫌な顏をして居るかに氣が付

きました。然し彼は恐れもせずに「折角持つて來た水を飲んで下さい」と願ふ優しい微笑を湛へながら、靜かに立つて居りますのに。番兵は敵の如くに看做して居る其兒からの親切を受け樣ともしないのは勿論で、其美しい顏を見下しもせず、苦り切つて身動きもしないで、子供の親切が解せないといふ調子で突立つてゐます。

子供は却て番兵の冷酷を解し兼ねた樣子で、微笑みながら出來る丈け爪先きで背延びを爲ながら、大きな番兵が、小さい彼の手から水を飲み易い樣に一生懸命に腕を延ばしました。

番兵は斯の小さな子供から助を與へ樣とされたのを非常な侮辱に感じまして、逐ひ返して呉れ樣と槍の柄を持ち直しましたが、丁度其時に溶かされるやうな烈しい炎熱と刺されるやうな光線の直射に彼の腦頂は溶けて流れて仕舞かと思ふほどに苦惱を感じました。番兵は此焦眉の急に我を忘れて持直した槍を投げ出した瞬間に子供を兩手で抱き上げて小さな手に掬んで居た水を息も繼かずに一飲みに飲み干しました。

彼の舌を霑したのは眞の一二滴でしたけれども、それで充分でした。其水に舌が觸るゝや否、何とも云へぬ爽快な冷氣は身體中に浸み渡つて甲冑も燒き付く樣ではなく疲勞も苦痛も忘れた樣に感じました。太陽の光線は其恐ろしい力を失ひ、彼の唇は柔かに再び濕ひを持つ樣になつて、もはや赫々たる炎熱が眼の前で舞はなくなりました。

子供は地上へ下ろされると再び直に牧場へ遊びに行つて仕舞ひました。

「彼の兒が己に持つて來て呉れた水は一體何といふ水なんだらう、不思議な水だ、己は眞個に彼の兒にお禮を云はなければならない」と云ふかと思へば又「何だ眞の子供だ。あの兒にあゝ仕樣とかこゝ仕樣とか云ふ考へなんかあるものか。ほんの面白半分にやつた迄の事だ。蜂や百合等がお禮をいふか？　己は何にも斯樣な子供に感謝の意を表する譯はない。

彼は己を救つた事さへも知らずに居るのだ」と番兵は獨り呟きました。

暫く經ちましてから、ベツレヘムに駐營して居りましたローマ兵の指揮官が城門から出て參りました。彼は驚いて、

「や、危い處。彼の兒の餘計なおせつかいで、もう少しで飛んだ目に遇ふ處だつた。若しヴルチデヤスがもう一分間早く出て來たなら己が子供を抱き上げて居る處をすつかり見られて仕舞ふ處だつた、まあよかつた。」

やがて指揮官は兵士の處へ近づいて參りまして、

「少し話したい事があるが、他人に立聞かれる心配はないか」と尋ねました。

「いや、大丈夫。門から十歩離れても聞える氣遣はありません」

「さうか……」と指揮官はいつて、猶ほ語をつぎ。

「お前も知つての通りヘロデ王樣は此間中から此ベツレヘムに住んで居る一人の子供を捕へたいと探してお出になる。王樣の預言者や祭司等は其の兒が王の位に上ると王樣に申上げたさうだ、其上に新王は一千年の間平和と正義に國を統治るだらうとも云つたさうだ。だからヘロデ王樣が何としても其兒をない者としようと望んで居られる事は勿論お前にも分かるだらう」

「はい、良く解かりました」と番兵は熱心に猶も語をついで、

「其樣事は世に造作もない事ではありませんか」

「さあ、それが此のベツレヘムに居るどの兒だと王樣に分かつて居さへすれば、造作もない事に相違ないが……」

番兵は眉根を寄せて、

「王の預言者ともあるものが此事をはつきり王樣に告げる事が出來ないとは情けない事だなあ」

「いや、そこで王樣は一計をめぐらして、どうしても其平和の君をない者としようと云ふのだ。誰でも王樣を助けた者には莫大な御褒美を下さるさうである」（つゞく）

彙報

◎中央委員會例會

大正六年二月三日(土)午後二時半より神田北神保町女子青年會本部事務所に於て開會せり。出席者は本部よりは井深花子三谷民子、長谷川喜多子、星野愛子、山田千代子、ミセス・クレメント、ミセス・フィッシャー、ミス・ウエスト、ミセス・クック、ミセス・バルドウキン。幹事河井道子、ミス・マシウ、ミスガンター。横濱より室原富子、野村美智子、二宮わか子及ミスレーガン。東京青年會より新渡戸まり子加藤高子、ミス・ペーチの二十一名なりき井深委員長の聖書朗讀及ミスレーガン、三谷民子氏の祈禱を以て開會、事務員松宮信子前回記錄朗讀、次に自大正五年十月至大正六年二月の總收入金壹千六百拾參圓九拾五錢也總支出金壹千五百九拾壹圓八拾九錢也にて他に事務室借用代不足金貳百四拾圓也との會計告あり。次に各部報告に移る。(一)河井幹事學生部報告、過去四ヶ月間に同幹事の訪問せし學校は青山女學院女子英學塾、東洋英和女學校、渡邊裁縫、神奈川捜眞、横濱英和、名古屋金城、仙臺宮城、廣島、岡山、山陽、姫路日の本、德島の各女學校又德島縣立師範學校、大阪プール、ウヰルミナ、梅花、京都同志社、平安女學院、靜岡縣立女子師範及英和女學校等凡て二十校なり全體より云へば幹事訪問は支部青年會を引締め世間に女子青年會を紹介するの好機會なりき。(二)井深委員長財團報告。ミスカフマン所有の輕井澤別莊及牛込砂土原町の本會幹事新住居は財團のものとして保管する事となり。故ミラー氏の寄附なる麴町平河町の土地家屋は本年中に賣價四萬圓にて賣却せん計畫なり。土地柄故誰方にても志望の方へ紹介せられん事を乞ふと。(三)加藤高子氏より東京青年會報告。(四)横濱青年會々長室原富子氏及ミスレカーカンより横濱青年會報告。(五)ミスマシウより移民部報告。(六)河井幹事より雜誌部報告。本年は本會雜誌を益發展させんと新に神山

愛子氏を加へ一同奮發中なり委員方の援助を偏に乞ふ。又降誕祭には其紀念として地方及東京にある求道者百名許へ降誕祭號を寄贈せり其内一名は會友となり三名より禮狀來る。其他一月號殘部四十冊をミスゲインスの申込により廣島女學卒業生へ送附せり(七)河井幹事より關西地方巡回報告。(詳細は本誌一月及二月號に記載しきれば前に省略す。(八)ミス・ガンターより事務報告、同氏の九月より二月迄に書きし手紙の數通なりと。

次に左の順序にて新要件を可決せり。(1)横濱女子青年會及名古屋清流女學校青年會の同盟加入の事(2)本年度第十二回夏期修養會を神戸仙臺の二ヶ所に開催せんとの計畫其委員は留任(3)ミスゲインスより廣島縣郡部へ、米國の事情等を紹介せん爲河井幹事出張の希望に應ずる事及其出張費用は目下本會財政に餘裕なき折柄ミスベネットに於て其全部を負擔せんとの申出により二月中旬河井幹事の出向の事(4)移民部、財政部、修養部及新中央委員を選擧するに當り先づ其等指名委員としてミセス・フイッシャー、三谷民子を選ぶ事。(5)市部青年會(學生青年會を除く)會長を中央委員會に招待されたしとの申出に對しそは本部の働を市部に知らしむ好機なれば承諾する事。(6)弘前及福島縣下よりは殊に再三幹事の訪問を請求し來るに付三月頃河井幹事出張の事。(7)大阪支部設置の爲河井及マシウ兩幹事は四月中週間許同地視察の事。(8)新幹事ミスエマソンは本年七月を以て日語學校卒業に付大阪支部設立の上は同氏を同地幹事に推薦する事。(9)本會同情者にして米國より歸朝中なる高峰、高木、沼野の三夫人及在京中なるルイス夫人の爲三月二日茶話會開催の事其委員として志立夫人、ミセス・クレメント、長谷川喜多子氏、ミセス・ボルドウィン及小此木松子氏を選擧す是等の諸件を議決し終りに一同主の祈を以て六時頃閉會せり。

◎東京基督教女子青年會　一月廿六日東京基督教女子青年會の職員一同の集會を午後五時半よ

り開く。一同晩餐の後互に過去の經驗及び報告をなし又將來の事業に就き互に發展を圖り尚河井幹事の奬勵等ありき出席者十二名。

一月廿七日午後一時半より階下の會場にて協同傳道婦人祈禱會開かる橫濱海岸敎會牧師笹倉氏及井深花子氏の講話あり出席者八十餘名にて頗る靜肅なりき

一月卅一日午後五時より石川靜子姉の聖書の組主催となりて日本石油會社其他の會社に務めらるゝ方々を招き夕食を共になし尚河井幹事の訓話等ありて互に懇談し各滿足して散會す出席者十六名なりき。

二月三日午後二時より女子學生親睦會を開く出席者三十餘名體操場に於て種々ゲームをなせし後節分の事とて豆撒等して一同興せり二階にて茶菓の後讃美歌を歌ひ渡邊幹事の聖書の組につき短きお話あり四時半頃散會す。

二月十七日午前十時頃より大阪淸水谷高等女學校同窓會ありき出席者三十餘名ありき同日午後三時より女子高等師範卒業の友邦女子留學生李昴孃今度渡米留學せらるゝにつき東京青年會の幹事主催となりて送別會を開く。出席者は支那留學生二十二名の外に津田梅子女史、大江スミ子女史、吉岡彌生女史、小柴松子女史、小池美惠女史、丸山夫人、ミセスエルウキンの參會者ありき尚津田、吉岡、大江の三氏は李氏渡米につき訓話注意等せられ後紀念の撮影をなす眞に美しき會合なりき。

今學期より新たに作られたる聖書の組の中にて大學看護婦講習生の組（加藤幹事擔任）及び職業學校、の組（渡邊幹事擔任）は共に最も興味深き組なり、尙同組の柿崎つた子姉は二月十一日に富士見町敎會にて洗禮を受けられたり。我々の最も感謝する處なり

一月十二日東京府知事より本會附屬旅行者之友事業へ對し奬勵として金貳拾圓下附せられたり

本年度より特に維持（壹ヶ年三圓）及び特別（壹ヶ拾圓）會員を募り大いに會の發展を圖らん事を希望して止まず。諸姉振つて入會されん事を乞ふ。

◎橫濱女子靑年會

昨年十月廿八日男子靑年

會館にて公開演説をなし渡米問題に付公衆の注意を促し十一月に海外渡航婦人講習所を開始す。目下當講習所には四名の寄宿生あり内三名は渡米の筈。タイプライター練習に三名、英語二組へ十八名、舊約聖書の組へ八名、料理の組へ九名、體操の組へ四名出席生徒會員百六拾五名、收入二百六拾圓ありき、來月よりは婦人勞働者の爲聖書の組、新會員歡迎會英語會の企あり。又在濱支那人の爲にも考案中なり三月上旬講演會を開き農商務省水產局長鶴見左吉雄氏の歐洲婦人の近狀と題し講演あるべし。

◎梅花女學校　昨年十月下旬河井先生御來阪の節は梅花女學校へも態々御立寄下さいまして誠に有難く御座いした。梅花の青年會は彼時先生の御話に依りまして餘程全體に何か働き度いといふ希望が起つて來た樣でした、けれどもそれからは降誕祭も近つきましたり準備の爲や何かで一向に目立つた事も出來ずに年は暮れましたのですが今年學期が始まると直ぐ委員會を開き此新しい年の始から先づ委員が先きに立つて働いて他の方々の手本になる樣にと決心して種々相談致しました。そして委員達が責任を以て又興味を以て働くといふ樣にとミス・オルチンも御奬め下さいまして誠に美しい集會で御座いました。私共は未だ本部の同盟には加入しては居りませんが其内に漸次基礎を固めて遠からずして是非加入させて戴き度いと存じて居ります。只今致して居ります私共の働きは、每日曜日に圖を持て病院を御見舞する事で御座います。人の爲めに働くといふ第一步の爲めに始めたのですが大層會員の方々も喜んで働いて下さいます。斯ういふ風で漸く步き始めたといふ赤兒の樣な有樣で御座いますけれど、今年中には何う小さな物でも眞個の實を結ぶ樣になり度と勉めて居ります。何卒大阪を御思ひになります時には梅花の青年會の事も御考へ下さいませ。

尚別紙四人の方が雜誌を御希望で御座いますから最も宜敷御取計ひ下さいませ。（安藤庸子報）

◎雜報　宮城女學校は三月三日より五日迄同校青年會主催の下

に修養會を開き大傳道を擧行する計畫ありて同校より河井幹事の應援を依頼せり。

■**弘前女學校**　三月二十二日卒業式前後に於て傳道會を開き教會と相提携して大に該地の爲め活動せんとして河井幹事を招待せり。

■**東京女子青年會**　は二月二十五日日曜日萬國學生祈禱日を神田會館にて守る同時に婦人矯風會にても國家の爲めの祈禱會を同所に於て催す。

■**河井幹事**　は廣島女學校々長ミスゲエーンスと共に同縣下に於て渡米問題に就き講演會を開催せん爲め二週間滯在の豫定にて十五日西下す。

■**名古屋清流女學校青年會**　は二月の中央委員會に於て本會支部たる事を可決せらる。

■**横濱英和女學校**　二月九日同校講堂にて春季大文學會を執行せり生徒の英邦文諳誦、對話、唱歌、狂言等ありて盛會なりき。



おとづれ

◎私の小さき祈は聞かれました

鹿兒島　青山英子

基督教に就いて近頃は主人がなか〱熱心で餘程求めて居ります事は誠に感謝に堪えません事です、御會の雜誌などいつても始めより終りまで讀んで居ります當地にては吉本一良様と申さるゝ御方が去る十一月十四日に初めて鹿兒島傳道館の宣教師ライダー様と突然御いで下さいまして今夕演説會を催すとの事私は思はず地に臥して感謝いたしました、呼、私の小さい祈を聞かれ今日は御使者を送り給ひし御惠みに、私はその折風邪を引いて發熱して居りましたが病氣も忘れてすぐさま準備いたしました、其時は丁度午後の三時過ぎであちこちいたしますうちに七時になりましたがお集りになりました御方は大勢で御座いました、半分は庭に立つてお聞きのやうで御座いました、それから十二月の五日と二十五日にまた先生方御二人おいで下さいましたが二回は一回よりも三回は二回よりも多くの集りで日置、加世田、枕崎、川邊の四ケ村で晝夜の御働きには大分御疲勞遊ばされました御様子で御座いました。

鹿兒島は一圓に佛法で基督教の傳道はむつかしき處です御承知でも御座いませう、唯我獨尊で御座いますから、殊に郡部は酒呑が多く飲めば芋掘りが始まり始末に困る土地で御座います、一つは好奇心かも知れませんがかくも集まつた事は感心いたしました、川邊村は以前より盛んだと聞き及んで居りました加世田では私が一人の信者のやうで誠に神様に申譯のないやうな氣がいたします、傳道が開

かれましてから私を尋ねて下さる方も四五人御座いまして本當に嬉れしく存じて居ります、道をお求めの方は大分おありのやうで御座いますから何卒私共のために特別にお祈り下さいますやう御願ひ申上げます。

◎大なる教訓を與へられます

下ノ關　中島わさ子

女子靑年界を拜見いたします毎に大なる感動と教訓をあたへられ嬉しく存じ居候、日本中の多くの女が御教訓によりて神を信じ益々正しき道に導かるゝやうに御話を拜讀する毎に祈り居り候、扨私事一昨年の春より當地にて働く事と相成り目下引き續き當地に住ひ居候當地梅光女學院には共勵會設けられてありて生徒方はそれ〴〵働き居られ候。

◎最大の同情は力ある熱心なる祈に候

吳市　十時菊子

過日は「女子靑年界」御送附下され殊にホームの事御親切に御教へ頂きし事誠に〳〵嬉しく神樣は知らざる中に同情者を與へ給ふ事感謝の外無之候、近く全艦隊入港とてその準備に良からぬ婦人を諸所から集め居る由寒心の外無之候、噫此借家の小さきホーム如何にしてか他日一度は淸きホームに招きて歡迎いたし得る設備に到らせたく寒心の祈に候、何卒々々御祈り被下度切に〳〵願ひ上候私の爲めの最大同情者は力ある熱心なる祈りに候。

◎新しい仕事に幸福を感して居ます

姫路　藤浦初音

私は暫く岡山の田舍の教會に御旨のまゝに働いて居りました何の力も素養もありませんけれども御聲を聞きつゝ素人傳道師といつた形で大變愉快に働かていたゞいて居りました、然し靑年會と云つた風の働きに迄手が出せませんでした事は殘念で御座いました、三人位の人と語らひましたけれどもなか〳〵先づ目指す可き人が御座いませんでしたので其内に神樣は姫路の日の本女學校へお導き下さいました、新年より新らしい所で新らしい仕事に甚だ幸福を感じて居ります、此度は昔のやうに生徒を集めて御書を說きますのに何の障りもないばかりか更にもつと〳〵勵まされる學校で御座います、自らの不足と重荷とをひし〳〵と感じ出して居ります御惠みで御座います勉强いたしませう。

◎眞に心から主に近く事が出來ました

德島　高橋久代

十二月十八日から思ひがけなく病みまして合憎一番多忙な然も樂しい活動すべき時期中床の中で過しました、その上十九日から病院の人となつて三十日まで淋しい〳〵病室に立籠つて居りました病氣は矢張腸を害しました爲で初めは熱も可成御座いましたが入院後だん〳〵下つて來て別に大した事にもならず濟みました事は全く神樣の御力と友の親切な御祈りに依る事と信じて只感謝に堪へませんもう只今では全快致しまして以前のやうな元氣で働いて居ります、私

は家を遠く離れて居て此のやうな旅の空で病院の人となりましたのは丁度二度目で御座います、然も二度共クリスマスの時期で御座いました、けれども同じクリスマスを迎へましても以前のクリスマスと對照して全く其處に相違のある事を悦んで居ります此度は全く善いクリスマスを床の中で迎へました充分祈るべき時も感謝すべき時も與へられまして眞に心から主に近く接する事が出來たと悦んで居ます殊に何より今度の病氣で主が眞に私共の苦しめる惱める時の力であり又慰め手てあると云ふ聖書中の御言葉でありました、眞正にどれ程淋しさの中に立ち給ふて慰を與へられたかわかりません思はず主を信ずるものは幸なりと床の中で叫びました、そして毎日讃美歌の三百二十五を口吟んでは身の苦しみも全く忘れて仕舞つて居りました側に居にお婆さんや看護婦に或夜クリスマスやキリスト教のことを話しましたら大變よろこんで居りましたそしてお婆さんはいくら御金を出したらそんな善い宗敎に入れるかと申しましたので大笑ひ致しました。

◎來客は御斷りして敎會に出ます

布哇 志田くわ子

當地布哇ホノルヽにて日曜學校で十二歳位の少女の組を受持つ居りますが生徒は皆で十二人しか無いのですが柔和でよく覺えてくれますので悦んで居ります、去る二十六日のクリスマス會に一年間無缺席の少女が私の組から三人出ました、內地と違ひ日曜學校に出るのも比較的容易では御座いますが遊び盛りの子供がよく休まずに出席したと思ふて涙が出る程嬉しう御座いました、私も子供達に惡い手本を示さぬやうにと心懸けて居ります、丁度一年餘りの間に出產のための休みを除いては只一日しか休みませんでしたそれも少々氣分が惡かつたり來客などの爲め出席を躊躇する時がありましても夫は眞面目な信者で決して日曜學校の缺席を許しませんでしたので私は來客にはお氣の毒でもお斷りして敎會に出るやうに居ります。

◎先生方の西洋からのお土產

岡山 花子

まあ何と立派な建物なんでせう二年半の北國の田舍生活はすつかり私を田舍者にして仕舞まして電車の走る町を歩きますとすつかり肩が張つて仕舞ます肩のはつた花坊は靑年會館の御門の所迄やつと足を運んで美麗に掃き淸められた玄關先に立ちました時これが私共の會館なのかと眞實に嬉しく見上げました餘り長く口を開いて立つて居つたと見えまして玄關番の方がいらつしやいましと申しましたのでびつくりして我に返つてこはばつた口からやつと富澤さんにといひましたすると其人はボタンのやうな所へ口をあてゝお話を初めなすつたには驚きました電話など家にもありますから幾ら田舍者でも何でもありませんがあんな不思議な器械は初めての方が多いと存じますあれは先生方の西洋からのお土產ですの二度も三度もびつくりしてみはる樣に此處は何こゝは何とずつと案內されましたが只立派なのときれいなのと靜かなのに驚く外御座いませんでした此樣な立派な建物に對しても私共會員もはつと〳〵働かねばならないと强い或物を與へられました。

◎格別淋しさも感じ申さず候

下關　福尾つや

在京中は色々御世話様に相成誠に有難く厚く御禮申上候昨秋のバザー後皆様定めて御疲れの事と御察し申上候あのバザーがあれ迄好結果を得られ候事は今も思ひ出て誠に嬉しく感謝に堪えず候其後皆様より遠く離れ知る人も無き所に參り何となく不安に存じ候ひしもワーン氏御家族を初め共に居る方々も誠に親切にして御迎へ下され候爲格別淋しさも感じ申さず候私共の住居は停車場より小半里計り離れし小山の上にて誠に靜かに眺めもよろしく幸に御座候。

◎會内は春風が吹渡つて居ます

前　岡本みどり

本年本校女子青年會の働きにて金森先生の御來弘を願ひまして大講演會を開きました教會にても特別救靈會を開きまして隨分盛んな活動を見ました御承知の通り金森先生は北海道の方面を御巡回で御座いましたので其序にと早くより私が御手紙を差上げて御來弘を願ひました次第それより待つ事二ケ月惠みの日が參りました凡そ汝等が跣にて踏む所は我これを盡し汝等に與ふヨシア紀一〇三の御言葉に力をつけられて私共は盛に未信者の知人を訪問致しました處が大勢集りましたそして學校にては當時缺席して居りました生徒の他は皆決心を告白致しました殘るは後三四人の未信者丈けで御座います此様な事は實に今迄にない事と存じます昔の使徒の手もてなされたる神の奇しき御業が此處にも行はれた事を慥かに實驗致しました人數は僅か計りしかない寄宿舍ですが料理人までも神を信ずるに至りまして舍は實に春風が吹き渡つて居る様な氣が致しますこれより以前に木村清松先生も御出でになり其時にも多く改心者が御座いました此回を合せて二百名計で御座います學校の生徒も福音を恥とせず未知の人々を誘ひまして多くの未信者を集めて呉れました其勇氣は實に賞するに足ると信じますこれから此の多くの赤兒の信者を堅く／＼信者に導き行くのは大なる責任であると存じます力なき私共は只斷食と祈禱に依りて盡したいと思つて居ります是非とも河井先生一度東北の地に御出で願ひたう御座います今年は春の内に私共は此の新しい信者の爲めに何卒先生の御出でを願ひたいので御座います校長ラッセル先生は元青山女學院の校長を一寸なされた方で青年會に多大の興味を持つて下さいまして私を非常に助けて下さいます御蔭にて今年は本校からも三名の代表者を修養會に出しました私は此の冬に上京するかも知れませんそしたらばきつと校長と二人で東京の青年會本部をお訪ねいたします。

◎正●誤●

二月號會說中留學生接待は男子青年會の擔任の如く記載せしがこは誤なり。同二月號横澤つぎ子をトロントとせしは米國カロラド州の間違なれば茲に正誤す

○本會事業費寄附金領收（本部報告）

武笠みつ子　金拾圓也
弘前女學校青年會　金貳圓六拾錢也
久村よし子　金五拾錢也
手東靜子　金拾圓也
和田長子　金壹圓也
河井幹事　金四圓也
日高わか子　金貳圓五拾錢也

○萬國負擔金領收（本部報告）

弘前女學校青年會　金五圓也
藤浦初音子　金六拾五錢也
札幌女子青年會　金八拾錢也
小石川傳道女學校　金壹圓六拾錢也
本會員　金參圓五拾錢也

○入會申込者（本部報告）

石原龍子　甘粕なべ子　內田賤子
矢野廣子　安東鹿子　莊原秀子
蕨福子

○會友費領收（本部報告）

此會計報告は二月號に記載の筈の處餘白なき爲め本月と相成誠に申譯なく御容赦あらん事を願上候

金壹圓也
莊原秀子（大正六ノ一—十二）　蕨福子（大正六ノ一—十二）
安東鹿子（大正六ノ一—十二）　井街てる子（大正五ノ十一—六ノ十）
澤田みや（大正五ノ十二—六ノ十）藤浦初音（大正六ノ一—十二）
森田貞子（大正五ノ一—十二）　伊藤逕子（大正六ノ一—十二）
伊藤直子（大正六ノ一—十二）　諏訪ふみ子（大正五ノ四—六ノ三）
山本せい子（大正五ノ十二—六ノ十一）村上いつ子（大正五ノ五—六ノ四）
今泉艶子（大正五ノ二—六ノ一）小林勝子（大正五ノ四—六ノ三）
福永千代子、大正五ノ十—六ノ九）中島妙子（大正六ノ一—十二）
高橋まさ子（大正五ノ五—六ノ四）長谷川よし（大正五ノ十一—六ノ九）
馬場靜枝（大正五ノ四—六ノ三）手東靜子（大正六ノ十二—七ノ十一）
和田長子（大正六ノ一—十二）

金貳圓也
津田梅子（大正五年度）　山田千代子（同）
井深花子（大正六年度）　內田賤子（大正六ノ二—七ノ一）
松岡琴子（大正五ノ十一—七ノ十）野副トヨ（大正五ノ一—六ノ十二）
土井八重（大正五ノ一—六ノ十二）栗原よし（大正五ノ一—六ノ十二）
金五圓也　横川とよの（大正五ノ一—九ノ十二）
金壹圓五拾錢也　甘粕なべ子（大正六ノ二—七ノ一）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金八拾錢也
北星女學校（大正六ノ一—十二）　薦間とり子（大正六ノ一—十二）
西井岸子（大正五ノ五六ノ四）　薩堂鏸子（大正六ノ二—七ノ一）

及川ミツ子（大正六ノ二—七ノ一）池田ふぢ子（大正六ノ二—七ノ一）
新　峰子（大正五ノ十—六ノ九）阿部ヱイ子（大正六ノ三—七ノ二）
上代　淑子（大正六ノ三—七ノ二）齋藤　芳子（大正六ノ二—七ノ一）
猪尾せい子（大正六ノ二—七ノ一）櫻根かう子（同上）
田原あい子（大正六ノ二—七ノ一）小畑　和子（同上）
野口幽香子（大正六ノ一—十二）太田　花子（大正五ノ八—六ノ七）
永山ちか子（大正五ノ三—六ノ二）札幌女子青年會（大正五ノ十六ノ十）
蔦屋　旅館、大正六ノ一—十二）星野　靜枝（大正五ノ五—六ノ四）
石原　幸子（大正五ノ六—六ノ五）小川たか子（大正五ノ一—十二）
久村よし子（大正五ノ十二—六ノ十一）望月あさ子（大正五ノ四—六ノ三）
岡田　初子（大正六ノ一—十二）淵　夫　人（大正六ノ一—十二）
富永いく子（大正六ノ一—十二）
金八拾五錢也　長井キミヱ（大正五ノ一—六ノ一）
金七拾錢也
木岡　峰子（大正五ノ十二—六ノ十一）石原ます子（大正六ノ一—十二）
岡墻　秀子（大正六ノ二—七ノ一）
金參圓貳拾錢也　山川　嵕（大正五ノ一—六ノ十二各二部宛）
金拾貳圓參拾貳錢也　原田　鏘子（大正五ノ九、十、十一月百十一部代）
金壹圓貳拾錢也　荻野　久子（大正五ノ一—十二）
金貳圓四拾錢也
蜂巢　花子（大正五ノ十—八ノ九）成島　靜子（大正六、七、八年度分）
金參圓也
森村　確女（大正四ノ八—八ノ六）富永　工場（大正六ノ一—十二毎月三部宛）
金壹圓五拾錢也
星野　きよ（大正四ノ六—六ノ五）加藤よしみ（大正四ノ十二—六ノ十一）

一金貳圓也
江副商店（大正六ノ一—十二毎月三部宛）宇都宮琴子（大正四ノ十—七ノ五）
金貳圓七拾貳錢也　原田　鏘子（大正五年十二月分宛）
金貳圓六拾錢也　辰野ふゆ子（大正五ノ一—六ノ十二）
金　壹　弗　也　島田萬次郎氏（大正五ノ六—六ノ五）
金九拾六錢也　大西　靜子（大正五ノ四—六ノ三）
金壹圓六拾錢也　捜眞女學校青年會（大正五ノ二—七ノ一）
金五拾參錢也　伊藤　操子（大正五ノ十二—六ノ七）
金　四拾錢也　豐川かめ子（大正六ノ二—六）
金參圓四拾參錢也　橫濱女子青年會（大正六ノ二月號四十九部代）
金參圓四拾四錢也（原田　鏘子（大正五年七月分四十三部代）

●電●話●と●振●替●

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會本部
電話　本局五九八番　振替　東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正六年二月廿六日印刷納本
大正六年三月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三 誠 舍

at each. Welcome party for Miss Wanatabe, 20 schools represented, 90 present. Dormitory Xmas, 3 dormitories together. Tokyo Staff Meeting. Anniversary meeting of opening of new building, 35. Bible Study Rally, 200 present. Association members' Christmas. 150-200 present. Christmas party for 19 workers in Tokyo. Yokohama, and National Association. Christmas party for English Speaking Society. Kanda Sunday School Christmas. Reception to new secretaries in Autumn.

Meetings Held by Other Organizations in Kanda Building.

National Committee Y.W.C.A.
Tokyo Womens' Club.—Monthly.
Womens' Committee of the United Evangelistic campaign (Prayer meetings and committees).
Womens' Missionary Society of the Presbyterian Church in Tokyo.
Young Womens' Society of Kudan Methodist Church.—4 meetings.
Tokyo Playground Association.—2 meetings.
Chinese Women Students' Club.—2 meetings.
"The Womens' World"—a magazine for women with the largest circulation of any such magazine in Japan. Meeting held for its readers.—325 present.
"The Womens' Friend," a magazine for women with a large circulation throughout the country, held a series of meetings lasting 5 days.
Meeting of various charitable and relief organizations in Tokyo.

Kinds of Classes Held in Tokyo Y.W.C.A. in 1916.

English. 3 per week. Flower arrangement 1 per week. Cooking—3 weekly in Spring, in fall. Gymnasium, 2 classes. French—1. Book-keeping—1. Shorthand—1. Maids class—1. Singing—1. Bible—14. Total enrollment—222.

Kinds of People Enrolled in Classes.

Students, Business girls, Teachers, Married Women.

Y.W.C.A. Dormitories.

Daily prayers in each dormitory conducted by the matrons.
Sunday evening Bible talk in Nandomachi and Andozaka, arranged by the Association in Kanda.
Two picnics during the year. for dormitory girls and class members.
Nandomachi. 35 girls. Andozaka. 30 girls. Kanda. 12 girls.

Travellers' Aid Work, 1916.

144 girls kept over night or longer by the Travellers Aid matron.
73 given positions.
66 sent home to the country.
6 girls turned over to the Travellers Aid by the police.
2 matrons giving full time to this work.

Neighbourhood House.

Fouty-five children in kindergarten. Sunday School for neighbourhood children. Biweekly parents' meeting. English class for boys and girls. Hymn singing class in a near by sewing school.

Sunday Schools.

1 Nandomachi Dormitory. 1 Andozaka Dormitory. 1 Kanda Building.
1 Secretaries' Residence. 1 Neighbourhood House.

181

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XVI | MARCH, 1917 | NUMBER 3

On Friday, February the ninth Miss Kawai started from Tokyo to go to Hiroshima again. This time she will be traveling with Miss Gaines out through the country places, for Evangelistic meetings, and to give addresses on conditions among Japanese in the United States. A very large percentage of the Japanese girls who go to America, come from Hiroshima. Miss Bennett, Secretary for the Women's Council of the Methodist Church South, has just returned to America, after a tour of China, Chosen, and Japan, and she was so anxious that Miss Kawai should make this tour, that she offered to pay one hundred yen toward the expenses involved.

The regular meeting of the National Committee was held on Saturday, February 3, at the Y.W.C.A building in Kanda, Tokyo.

Mrs. Murohara and Miss Ragan reported for Yokohama, that they have undertaken a budget of Y.3,600; that since they moved into the new building they have had a fifty per cent. increase in membership, and have 130 girls in various classes, including forty children in Sunday School, and thirty girls in Bible study classes. (Since this meeting, on Sunday, February 18, a very successful meeting for Chinese girls in Yokohama, was held at the Association, under the joint patronage of Y.W.C.A. and Mrs. Forrester.)

Sei Ryu Jo-Gakko of Nagoya, and the Yokohama Y.W.C.A. were affiliated with the National Committee. It was decided to hold two summer conferences: to accept the invitation of Kobe College for one, and if possible to go to Sendai for the other. Miss Kita Hasegawa was made Chairman of the Summer Conference Committee. The request that Miss Kawai visit Hirosaki and Kawamata in March was granted. Miss Ruth Emerson was appointed General Secretary for Osaka, to begin work there in September and Misses Kawai, Emerson and Matthew were requested to spend a week in Osaka during the Easter Holidays, to consult with all those interested in work for Japanese girls, and decide how best to begin the Y.W.C.A. work there. It was decided to give a reception on March 2 (later changed to March 6), for Mrs. Takamine, Mrs. Takagi, Mrs. Numano, and Mrs. Lewis.

Miss Taka Kato, General Secretary of the Tokyo Association gave a most interesting report, covering the work of the past year, and showing how much the new building was being used.

TOKYO Y.W.C.A. 1916

MEETINGS HELD IN Y.W.C.A. BUILDING, KANDA, 1916.

Committee Meetings.—38, representing Tokyo Board, Educational Committee Neighborhood House, Trav. Aid, Dormitory.

General Meetings.—Annual Meeting ——— 150. Week of Prayer—3 meetings. Day of Prayer, 1 meeting. English Speaking Society—5 meetings Av. attendance 20. Housemaids party 50 present. Party for new graduates—2 parties. Meeting of all Associations about Tokyo and Yokohama. Bazaar. Attendance 1200. Concerts—2 300

生徒募集

文部大臣指定

私立

女子聖學院

普通學部（高等女學校程度）
- 第一學年　三十名
- 二學年以上若干名

家政學部
- 普通科＝修業三ヶ年　入學資格　尋小卒業程度
- 高等科
  - 一部＝一ヶ年　入學資格　高女卒業程度
  - 二部＝一ヶ年　入學資格　實科高女卒業

東京市外瀧野川町字中里山手線電車駒込驛より約三丁
電話下谷一七八八
乙

入學試驗四月六日より

授業開始四月十日

家庭的寄宿舍あり　規則書郵券貳錢

御用の節は【女子青年界】の廣告で見たと御申添下さい

宮内省
各宮殿下
御買上八回

桑港萬國大博覽會 銀牌受領

於博覽會共進會金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國産

御申越次第商品目錄進呈

水晶 細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
裝身具
床置物
珠數

指環 中差 簪 櫛 根掛 ヱリ止 帶メ 守玉 ピン カフス釦

印傳 袋物

二ッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐 叺 御殿持 巻莨入 火の用心 文人持

（水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り
御好みに應じ如何樣にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町
電話百〇二番
振替口座東京五〇六四番

女子青年界第拾五巻第三號（毎月一回一日發行）
大正六年二月廿六日印刷納本　大正六年三月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可